

AP-700

CONSOLE SOFTWARE

操作マニュアル



ジャストウェア株式会社

CONTENTS

目次

AP-700 コンソールソフト

AP-700 コンソールソフトとは	1
画面の構成	2
発行メニュー	3
操作方法（一般）	3
データの入力、変更方法	8
管理メニュー	10
ファイル管理	11
システム設定	12
日付時刻設定	13

第 2 部 フォーマット作成

フォーマット作成とは	16
機能	17
画面の構成	18
アイテムの種類とその設定方法	20
アイテムの分割	21
属性	21
アイテムの設定モード	22
アイテム設定ボタン	23
フォーマットの作成 Part1	30
ラベルサイズの設定	30
データベースの設定	31
罫線・枠の設定	32
文字列の設定（固定）	33
文字列の設定（入力）	34
連番の設定	36
バーコードの設定	37
図形の設定	38
日付と時刻の設定	40
関数の設定	41
フォーマットの保存	43
フォーマットの作成 Part2	44
計算結果を印字させたい場合	45
賞味期限を印字させる場合 1	46
賞味期限を印字させる場合 2	48

長い文字列を分割して印字する場合	49
図形の設定（データベースに登録されている場合）	51
金額を集計したい場合	52
ラベル発行時の履歴を取りたい場合	53
データベースから他のデータベースを参照する場合	54
4 つ以上のデータベースからデータを入力したい場合	58

第 3 部 データベース管理

データベースとは	65
画面の構成	66
データベースの設定方法	68
リスト画面の操作方法	72
画面のスクロール	72
グループの選択	73
アイテムとデータ項目の追加と変更	73
データの入力と変更	74
ファイル名参照入力	74
データ項目の移動	74
テキストファイルに書出す・読込む	75
テキスト区切りの設定	75
テキストファイルに書出す	76
テキストファイルを読込む	76
「データベース優先発行」用データベースの設定方法	78
外部データベースのアクセス方法	80
ODBC のデータソース名を登録する方法	80
「データベース管理」で外部データベースを読込む場合	82
外部データベースリンクの設定	83

第 4 部 バッチデータ管理

バッチデータ管理について	87
画面の構成	88
操作方法・その他設定	89
データ項目に関する情報	89
初期設定	89
発行時表示状態の設定	90
列順移動	91

第 5 部 履歴データ管理

履歴データ管理	93
履歴構造ファイルの作成	93
履歴データの照会	94
データ集計画面と分析について	95
履歴データ集計の操作方法	95
集計範囲の設定	95
並び替え	96
明細合計表示	97

はじめに

この度は、アプリケーションソフト「AP-700 コンソールソフト」をお買い上げ頂きありがとうございます。このソフトは、Windows 98 SE/ME/NT、Windows 2000 及び Windows XP に対応した汎用ラベル発行システムです。本書では、「AP-700 コンソールソフト」の導入や各プログラムの使い方について説明しています。ソフトの機能、操作、設定方法をご理解いただくために、ご使用前には必ず本書をよくお読みください。本書が皆様のお役に立つことを願っております。

ご注意：

1. このソフトウェアに重大な^{かし}瑕疵が発見された場合は、無償で交換します。
2. このソフトウェア及びマニュアルを運用した結果の影響については、一切責任を負いかねますので、ご了承下さい。
3. このソフトウェアの仕様、及びマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。
4. このソフトウェアを利用するには、ID キーが必要です。

パッケージの内容

「AP-700 コンソールソフト」のパッケージの内容は以下の通りですので、ご確認ください。

- ・「AP-700 コンソールソフト」セットアップ CD-ROM 1 枚
- ・USB-ID キー 1 個
- ・操作マニュアル 1 冊
- ・タッチペン 1 本

動作環境

- ・対応機種：DOS/V PC（デスクトップパソコンとノートパソコン）
- ・CPU：Pentium 100MHz 以上
- ・OS：Windows 98 SE、ME、NT、2000、XP
- ・メモリ：64MB 以上
- ・ディスプレイ：Windows 対応のカラーディスプレイ（解像度 800×600 以上 推奨）
- ・ドライブ：USB インターフェース、LAN ポート、CD-ROM ドライブ各 1 基以上
- ・ハードディスク：空き容量 100MB 以上
- ・マウス：Windows 対応マウス
- ・日本語 FEP：Windows 対応の日本語変換システム

はじめに

セットアップ (Windows98 SE/ME/NT/2000/XP)

1. Windows 98 SE/ME/NT/2000/XP を起動します。
※ その他のプログラムを起動している場合は予め全て終了させてください。

2. 「AP-700 コンソールソフト」のセットアップ CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。

3. 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。例えば CD-ROM ドライブが E の場合、名前に「e:¥setup」と入力し、「OK」ボタンをクリックします。

4. 言語を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。(図-1)

5. 「インストール先のディレクトリ名」を入力します。デフォルトは「c:¥AP-700」になります。(図-2)

6. 「次へ」ボタンをクリックすると、インストールが始まります。(図-3、図-4)



7. インストールが終了したら、「完了」ボタンをクリックします。(図-5)

自動的にパソコンを再起動します。

「スタート」→「プログラム」の中に「AP-700」のメニューが登録され、その中に「アンインストール」、「フォーマット作成」、「データベース管理」、「AP-700」、「バッチデータ管理」、「履歴データ管理」の6つのメニューが登録されます。

図-1

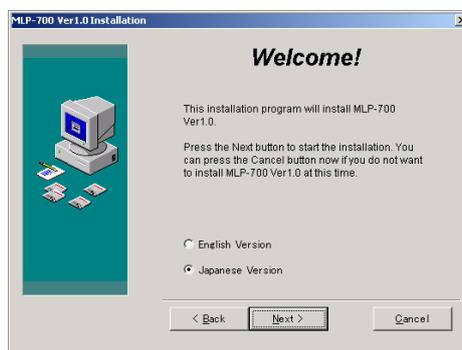


図-2

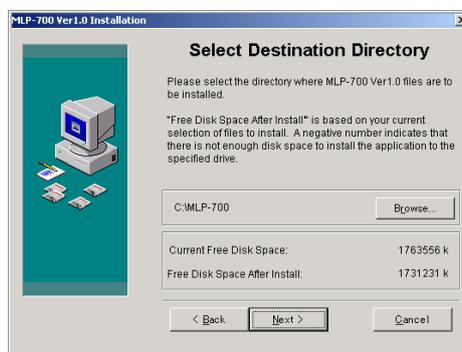
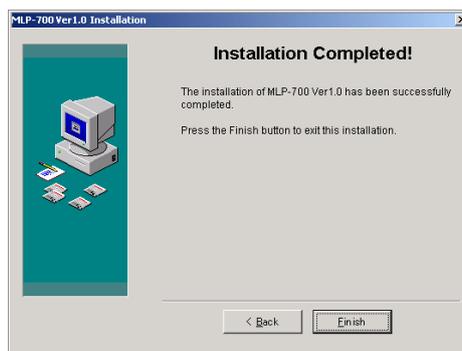


図-3



図-5



第 1 部

AP-700 コンソールソフト

AP-700コンソールソフトは、汎用性あるラベルを作成するためにラベルのデザイン、データベースの管理、および自動ラベラーにおける設定・制御を行います。

ここでは「AP-700コンソールソフト」の機能とその構成について説明します。

AP-700コンソールソフトとは

近来、IT技術の進展に伴い、より高性能で効率の良いラベリングシステムが求められるようになりました。ラベル発行の高速化、自動化が推進される中で、「AP-700コンソールソフト」は様々な要望に対応する汎用ラベルの発行が行え、且つ自動ラベラー「AP-700」を効率よく管理・制御するために作られたソフトウェアです。

主な機能は次の通りです。

- ◆ 多様性のあるラベルデザインの作成・発行ができる。
- ◆ 同時に最大 **3つ** の異なるラベルの発行と貼付ができる。
- ◆ ラベル作成に必要なデータを保存するデータベースを簡単に作成・管理できる。
- ◆ ラベル発行後の実績データの管理と集計ができる。
- ◆ 自動ラベラーにおけるプリンタ、自動貼付機、コンベア、センサーなどを一括で設定・制御できる。



画面の構成

AP-700 コンソールソフトを起動すると以下の画面が表示されます。



以下の3つのメニューに別れてそれぞれの操作を行います。



ラベル発行作業を行います。

作成されているフォーマットや、データベース、バッチファイルを呼び出してラベルの発行と貼付を行います。



ラベル作成に関わるデータの管理を行います。

フォーマット作成、データベース管理、履歴データ管理、バッチデータ管理
ファイル管理、システム設定、日付時刻の設定 など



AP-700 コンソールソフトを終了します。

※ 全ての操作はタッチパネルとテンキー入力で行われます。

発行メニュー

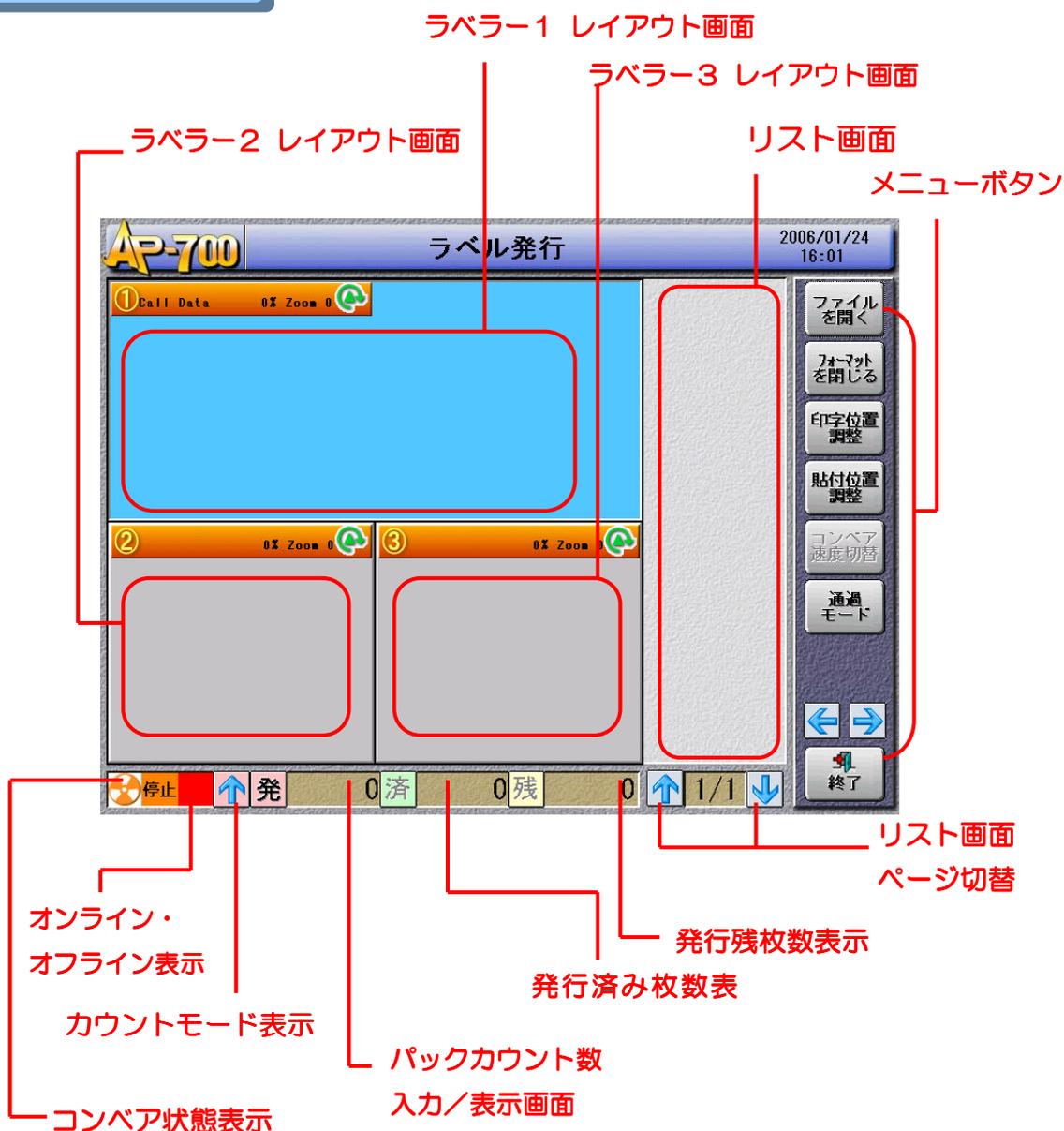


登録されているフォーマット、データベースを開きラベルの発行・貼付を行います。

ラベル発行前に・・・

ラベル発行をするには、前もって必要なフォーマットとデータベースを作成しておかなければなりません。本書では前後してしましますが、後ほどフォーマットとデータベースの作成の仕方を記載していますので、ご使用前には必ずよくお読み頂きますようお願い致します。

操作方法（一般）



◇ レイアウト画面/リスト画面 ◇

ラベルフォーマットが合っているのか、印字内容が正しいか、データ入力漏れが無いかなど、ラベルを発行する前に確認できるのがレイアウト画面です。画面は接続するラベラーの台数に合わせて分割されます。レイアウト画面には固定アイテム以外にも、データベースから呼び出したデータやキーボードから入力したデータ、連番の初期値や日付と時刻、参照/合成属性を持つアイテムの処理結果も表示されます。リスト画面は入力属性のデータの一覧を表示します。データの入力、変更をここで行います。データ名称にはデータの入力源、データ名が表示されます。リスト画面には(図-1)のアイコンが表示されます。

(図-1)

   はそれぞれデータベース1、2、3を表します。

 はキー入力を表します。

 は呼出データをあらわします。

 は各連番アイテムを表します。

◇ リスト画面ページ切替 ◇

呼び出されたフォーマットに設定されている、入力属性のデータ名称、データ値の一覧のページ数が表示されます。多いときは、  のボタンでページを切替えます。また「画面切替」キーで画面切替が行え、リスト画面の拡大表示ができます。(P9の図-4参照)

◇ パックカウント数入力・表示画面 ◇



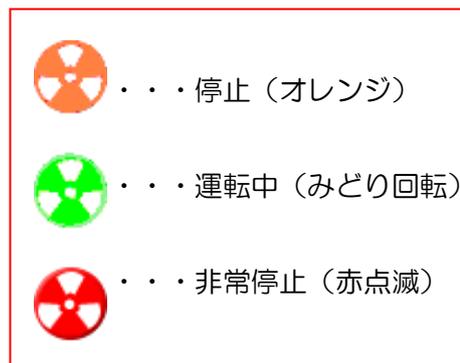
 の部分をタッチすると入力ウィンドウが開き、発行するラベルの数(パック数)を入力します。枚数を設定した場合、カウントモード表示は  と表示され、ラベルの発行が進むごとにカウントダウンされていきます。(カウントダウンモード)

また、枚数を設定しない場合は  と表示され、ラベルの発行が進むと共にカウントされて発行枚数を表示します。(カウントアップモード)

 は発行済み枚数を表示します。  は残りの発行枚数を表示します。

◇ コンペア状態表示◇

発行現在のコンペアの作動状態を表示します。
右図の3通りで表示されます。また運転中の時は、
 の右横にコンペア速度（1、2、3、4、5）
が表示されます。



◇ オンライン・オフライン表示◇

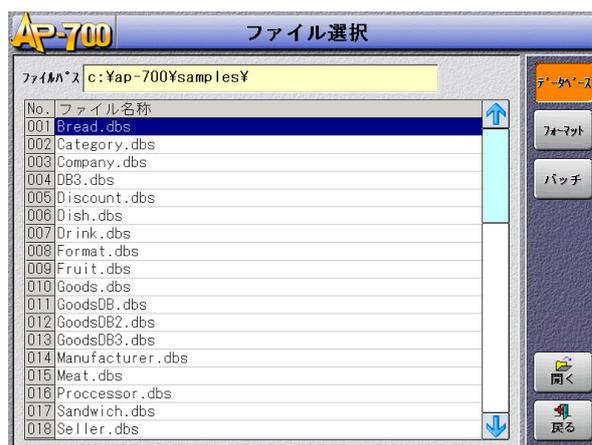
ラベル発行が可能な状態の場合は「ONLINE」、
出来ない場合は「OFFLINE」と表示されます。



◇ メニューボタン◇



ファイルを呼び出すラベラーレイアウト画面を
タッチ選択し、「ファイルを開く」ボタンを押す
と右の図のようにレイアウト画面から、ファイル
選択画面に変わります。



 を選択するとデータベースのみの一覧
が表示されます。データベース優先発行の場合に
選択します。（データベース優先発行の方法は、「第3部 データベース管理」を参照下さい。）

 を選択するとフォーマットの一覧が表示されます。フォーマット優先発行の場合に
選択します。

 を選択するとバッチファイルの一覧が表示されます。バッチ発行の場合に選択します。

ファイルを選択し、 ボタンを押すと、画面が切り替わり、ロードしたファイルの対応
フォーマットがレイアウト画面に表示されます。（図-2）

(図-2)



…フォーマットを閉じる

レイアウト画面に開かれているフォーマットを閉じます。複数のラベラーに接続され、複数のフォーマットを開いている場合は、閉じたいフォーマットを選択して（背景が水色に変わります）「フォーマットを閉じる」ボタンを押します。



…印字位置調整

ラベル停止位置の位置調整、印字左・右位置の設定を行います。

最初に調整を行うラベラーを選択します。

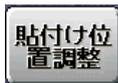
は押すごとに+・-に（ は左・右に）切り替わります。

で入力した数値を設定します。 で設定値がクリアされます。



ラベラー別、フォーマット別で設定するので、次の発行で同じラベラーで同じフォーマットを開くと、前回設定した値が呼び出されます。

テスト発行するには、テスト発行したいラベラーレイアウト画面を選択し（背景が水色になります）、【発行】キーボタンを押します。



…貼り付け位置調整

ラベル貼り付け位置の調整を設定します。
 ボタンを押すと A-1 の調整画面が表示されます。この画面では、5mm単位で貼り付け位置の調整が行えます。A-1 の「詳細」ボタンを押すと、A-2 の詳細設定画面が表示されます。

まず、調整したいラベラーを選択します。
 次に「+ / -」を選択し、数値を入力後、「送信」を押して設定します。「初期」で設定がクリアされます。

ラベラー別、フォーマット別、データベースアイテム別で設定するので、次回の発行時、同じラベラーで同じフォーマット、データベースアイテムが呼び出されると、前回の設定値が呼び出されます。

テスト発行するには、テスト発行したいラベラーレイアウト画面を選択し（背景の色が変わります）、【発行】キーボタンを押します。

A-1



A-2



…通過モード切替

通過モードの切り替えをします。押してボタンの色がオレンジになると「通過モード」に切り替わります。通過モードではコンペア上で商品が通っても、ラベルは発行されません。



…ズーム調整

レイアウト画面に開かれているフォーマットの拡大表示をします。ファイルを呼び出して一番最初に表示されるサイズは「Zoom1」とフォーマット名称の横に表示され、自動調整でレイアウト画面に合ったサイズで表示されます。このときのサイズを基準に、「Zoom 調整」ボタンを押すごとに「Zoom 2（2倍）→Zoom 3（3倍）→始めのサイズ」の表示を繰り返します。



※ Zoom 調整ボタンを表示させるには、右図の矢印ボタンでメニューボタン表示切替をします。

データの入力、変更方法

リスト画面で入力、変更したい「データ名」の下の白い表示行をタッチするか、「データ名」左側のアイコン（P5 図-1参照）をタッチすると入力ウィンドウが開かれます。入力を取り消したい場合は〈消〉キーを押します。入力を確定したい場合、「実行」キー押すか、アイコンをもう一度タッチします。但し、DB1、2、3と呼出データの場合、アイコンをタッチするとデータの一覧が表示され、データの選択になります。データの変更は白いバーをタッチします。

AP-700での入力操作はタッチパネル操作のほかに、キー操作（図-3）で行います。

(図-3)



- 【データベース1】、【データベース2】、【データベース3】はそれぞれ設定されている1番～3番目のデータベースアイテム一覧を表示させます。また、先に呼出コードを入力してキー【DB1】、【DB2】、【DB3】を押して、又は画面上のアイコン【DB1】、【DB2】、【DB3】をタッチすると、データベースからアイテムを呼び出し、レイアウト画面上のフォーマットに表示します。

- 【画面切替】はリスト画面の拡張⇄縮小表示をします。（図-4）
- 【紙送り】はラベルの紙送りを行います。
- 【発行】はラベルのテスト発行を行います。

(図-4)



◇ データの検索によりアイテムを選択する方法◇

フォーマットにデータベースが設定されている場合、【DB1】、【DB2】、【DB3】キーでそれぞれ対応するデータベースが表示されます。検索したいデータを「検索データ入力」の欄に記入して、 ボタンを押すと、セレクトバーは検索するデータと一致するアイテムに移動します。一致するものが無い場合「データが見つかりません」のエラーメッセージが表示されます。又、一致するアイテムが複数ある場合、リストの一番上のアイテムからセレクトバーが移動します。 ボタンを続けて押すと検索を続けます。

管理メニュー



メニューには以下の項目があります。

フォーマット作成

フォーマットの作成・編集を行います。

(詳しくは P.14 からの「第2部 フォーマット作成」を参照ください)。

データベース管理

データベースの作成・編集を行います。

(詳しくは P.64 からの「第3部 データベース管理」を参照ください)。

バッチデータ管理

バッチファイルの作成・編集を行います。

(詳しくは P.86 からの「第4部 データベース管理」を参照ください)。

履歴データ管理

発行履歴データベースの作成・管理を行います。

(詳しくは P.92 からの「第5部 履歴データ管理」を参照ください)。

ファイル管理

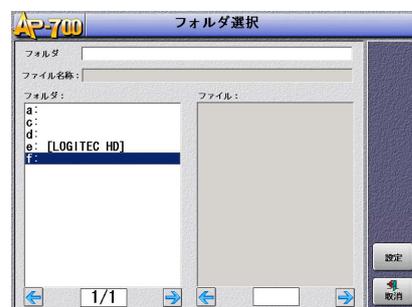
フォーマット、データベース及び図形、バッチファイルなどの AP-700 コンソールソフトで使用するすべてのファイルをメモリディスクへの出力、または取込みを行います。【図-A】を使って説明します。



① ファイルフォルダ

ファイルの書出し、取込みを行うフォルダを指定します。「参照」ボタンを押すと選択画面（図-B）が表示されるので、Wクリックでフォルダを選択していきます。最後に「設定」ボタンを押すと、全画面に戻り、フォルダパスが入力されます。上段はAP-700のデフォルトフォルダを指定します。下段にメモリディスクなどのファイルの書出し先、取込み先を指定します。③の操作種類により、「書出元」・「書出先」/「取込元」・「取込先」の表示が変わります。

【図-B】



② ファイル種類選択

ファイル一覧（⑤）に表示するファイル種類を選択します。
 「データベース」・・・データベースファイル (.DBS) のみ表示
 「フォーマット」・・・フォーマットファイル (.FMT) のみ表示
 「全ファイル」・・・AP-700で使用する全てのファイルを表示

③ 操作種類選択

「取込み」・「書出し」の操作種類を選択します。
それぞれ、「～元」から「～先」へのデータ移動となります。

④ 「削除」・「実行」ボタン

「削除」・・・ファイル一覧で選択したファイルを削除します。
「実行」・・・ファイル一覧で選択したファイルを指定した操作種類で移動を実行します。

⑤ ファイル一覧

ここで表示されるファイル一覧は「書出元」、「取込元」のファイルです。
表示するファイル種類は(②)で選択した種類で変わります。
ファイルを選択すると、「STATUS」に「予約」と表示されます。
実行後、正常に移動すると「成功」、失敗すると「失敗」と表示されます。

システム設定

・ **自動ロードするファイルのパスと名称**

ラベル発行メニュー起動時に自動でロードするファイル(データベース)を設定します。ロードしない場合は、「しない」を選択します。



・ **履歴設定ファイルのパスと名称**

AP-700コンソールソフトでの履歴ファイルは、1つの履歴構造ファイル(拡張子.HST)で管理します。その履歴構造ファイルを設定します。(履歴構造ファイルについては第4部 履歴データ管理を参照下さい。) この設定が正しくないと、発行が出来ません。

・ **バックアップファイルの作成**

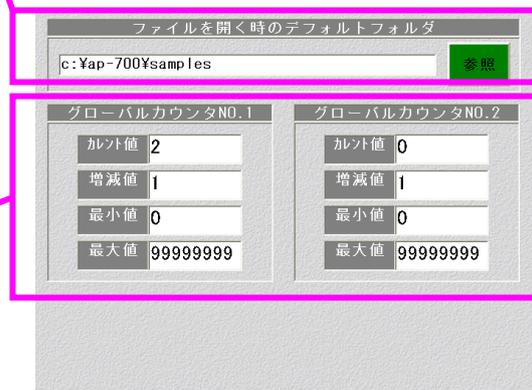
ファイルの変更を上書き保存した時、自動的にバックアップファイル(拡張子「.BAK」のファイル)を作成するか、しないかを設定します。

・ **ファイルを開くときのデフォルトフォルダ**

AP-700 コンソールソフトでは、1つのデフォルトフォルダを設定し、そのフォルダ内のファイルのみを使用可能です。この設定を必ず行わなければなりません。データの呼び出しが出来ません。

・ **グローバルカウンタ No.1、No.2**

グローバル連番の増減値、最小値、最大値を設定します。カレント値は発行画面での変更が出来ます。

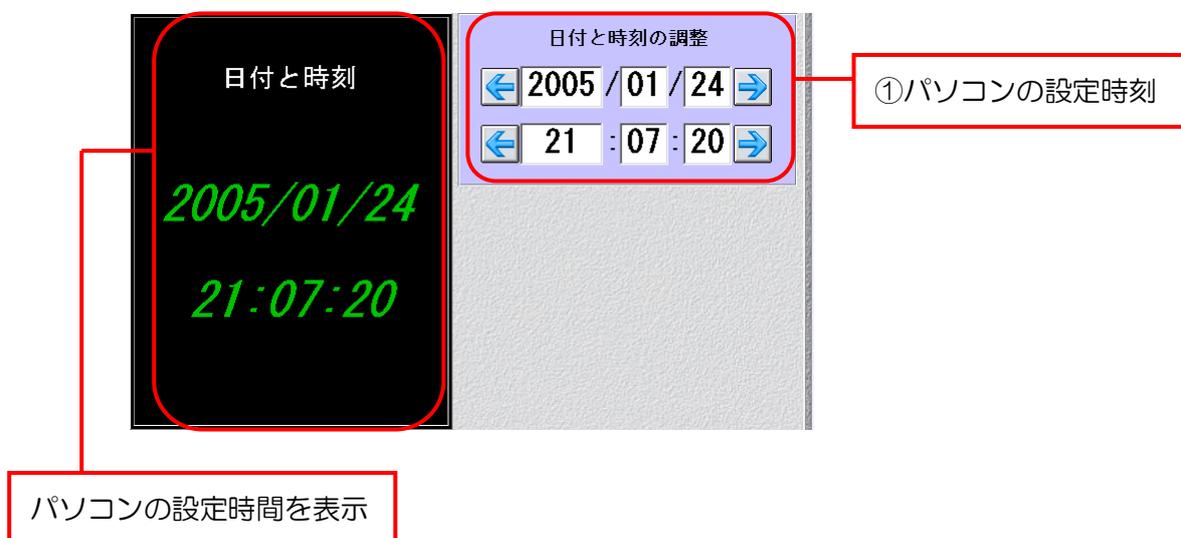


日付時刻設定

日付・時刻の設定を行います。調整する箇所を選択して、矢印で増減させ調整します。

(図-5)の画面左に表示されているのはパソコンの設定時間になります。画面右上の「日付と時刻の調整」で設定された時間が表示されます。「日付と時刻の調整」の設定は調整したい箇所を選択し、左右の矢印で増減して調整を行います。最後に **設定** ボタンを押して完了します。最後に「終了」ボタンを押して設定が完了します。

(図-5)



第 2 部

フォーマット作成

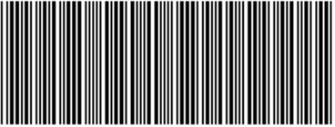
ラベルを発行する前に、まずフォーマットを作成しなければなりません。カラーのイラスト・ロゴの挿入、多彩なフォントでアウトラインもかけられ、自由にフォーマット編集が出来ます。ここでは、実際にフォーマット作成して、いろいろな機能について紹介していきます。

フォーマット作成とは

フォーマットとは、ラベルに何を（内容）、どの様に（方式）印字するか、また印字内容がどの様に変わるか（属性）を決めるものです。

フォーマットとは、ラベル発行時に必要な制御情報を全て含めるので、ラベルを発行する前にまずフォーマットを作成しなければなりません。

属性の情報をフォーマットに取り入れることで、ラベルを発行する際、自由に柔軟性のある異なる内容のラベルを発行することができます。

 JustWare	
GP-460 S ラベルプリンター460Gタイプ	
1999.03.19	0101032000
重量：17 kg	
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2	
ジャストウェア株式会社	

【越後名産】	
笹だんご	
手造り味の きどうぞ	 0 0 1 1 2 3

品番	あいうえおあいうえお		
略名	ABCDEFGHIJKLMNQRST	収支	A
予定数	12345678	数量	12
出庫支給日	1999年03月24日	ピッキングNO	12345678
相手先	12	親品番	



機 能

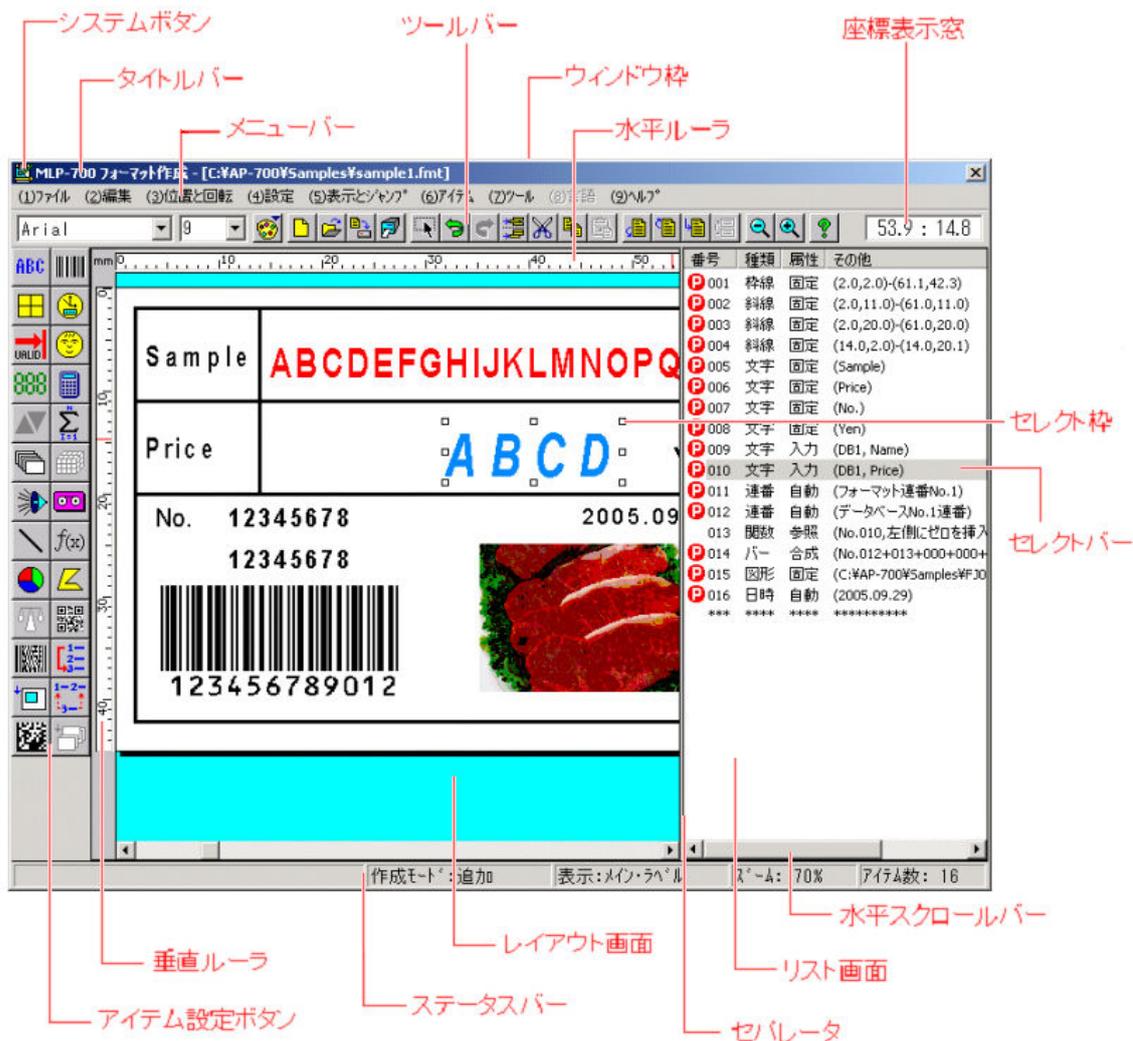
【AP-700 フォーマット作成】は、ラベル発行時の汎用性や柔軟性、自動性を実現する為に、以下に示す様々な機能を提供しています。これらの機能を組み合わせる事によって、ユーザーの独特なニーズを満たすラベル発行が可能です。

- | | |
|------------|--|
| 「入力機能」 | ラベル発行の時キーボードから入力する事や、データベースファイルからデータを読み出して印字する事ができます。 |
| 「参照機能」 | あるアイテムが、他のアイテムを参照し、その参照されたアイテムのデータをコピーして印字する事ができます。 |
| 「合成機能」 | 幾つかのアイテムのデータを組み合わせて印字する事ができます。 |
| 「図形機能」 | 事前に作成した図形や、ロゴ、特殊記号などをラベルに印字する事ができます。 |
| 「連番機能」 | 3種類の連番をサポートします。
①グローバル連番…全てのフォーマットやデータベースのアイテムが、共通して使う連番。
②フォーマット連番…各フォーマットがそれぞれ独自に持つ連番。
別のフォーマットに影響されません。
③データベース連番…データベースにある各アイテムが独自に持つ連番。 |
| 「演算機能」 | 2つのアイテムのデータを演算して、演算の結果をラベルに印字する事ができます。 |
| 「集計機能」 | あるアイテムのデータを集計して、集計の結果をラベルに印字する事ができます。 |
| 「日付時刻機能」 | 日付と時刻を自動的にラベルに印字する事ができ、印字の形式を自由に設定する事ができます。 |
| 「有効期限」 | 有効期限を指定すれば、期限になる日付や時刻を自動的に計算して、印字する事ができます。例：3日間と設定すれば、3日後の日付が印字されます。 |
| 「履歴記憶機能」 | 必要に応じて、ラベルに印字したデータの履歴を残す事ができます。 |
| 「バーコード機能」 | 現在よく使われているバーコードをラベルに印字する事ができます。 |
| 「データベース機能」 | 1つのフォーマットに、3つのデータベースファイルからデータを読み出して印字する事ができます。 |
| 「サブラベル機能」 | 複数のフォーマットで使用される共通するアイテムパターンをサブラベル（子ラベル）として1つのフォーマットにまとめて保存し、別のフォーマット内に取り込むことができます。フォーマット作成の効率を上げます。 |
| 「条件参照機能」 | 1つのフォーマット内で条件を設定し、発行時その条件により異なるアイテムを参照し印字内容を変更する事ができます。 |

画面の構成

次は【図2-1】を基に、画面の構成に関する説明をしていきます。

【図2-1】

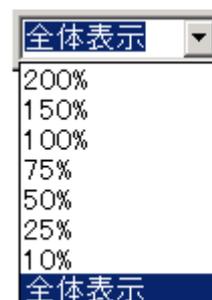


座標表示窓: レイアウト画面にマウスポインタがある時に、座標が表示されます。**セレクト枠***1をドラッグする時は、枠の左上角の座標が表示されます。単位はmm(ミリメートル)です。

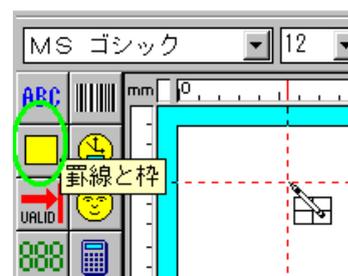
あいう

*1 レイアウト画面で選択されているアイテムを示します。

ズーム表示窓:ズームを設定します。直接値を入力するか一覧から選択して設定します。この値はフォーマット保存時に記憶されるので、ラベル発行においてフォーマットを利用する際、自動的にこの値でフォーマットを開きます。



アイテム設定ボタン:アイテム設定ボタンをクリックすると、マウスポインタの形が変わります。右の図は[罫線と枠]アイテムをクリックしてから、レイアウト画面に移動したところです。レイアウト画面に移動してからクリックすると設定画面が開かれ、位置が自動的に設定されます。詳しい説明は [ヘルプ] メニューの [目次] → 「アイテム種類とその設定方法」をご参照下さい。



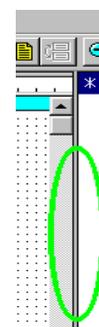
リスト画面:設定したアイテムの属性、印字内容・方法などの情報を表示する画面です。右の図の  がセレクトバーです。リスト画面からアイテムを選択、削除したり、[バッファ](#)^{※2}にコピーしたりする事ができます。詳しい説明は [ヘルプ] メニューの [目次] → 「リスト画面における操作方法」をご参照下さい。

番号	種類	属性
001	罫線	固定
002	罫線	固定
003	文字	固定
004	罫線	固定
005	文字	入力
006	文字	固定
007	文字	固定
008	罫線	固定
009	文字	固定
010	図形	固定
011	文字	固定
012	連番	自動

レイアウト画面:ラベルデザインを表示する画面です。デザインの確認やアイテムを設定したり、移動・コピー・削除する事もできます。詳しい説明は[ヘルプ]メニューの[目次]→ [レイアウト画面における操作方法]をご参照下さい。



セパレータ:レイアウト画面とリスト画面の境界線です。セパレータをドラッグすると、レイアウト画面とリスト画面のウィンドウサイズの表示比率を変える事ができます。この表示比率は記憶されるので、次回プログラムを起動したときは、同じ比率で画面を表示します。



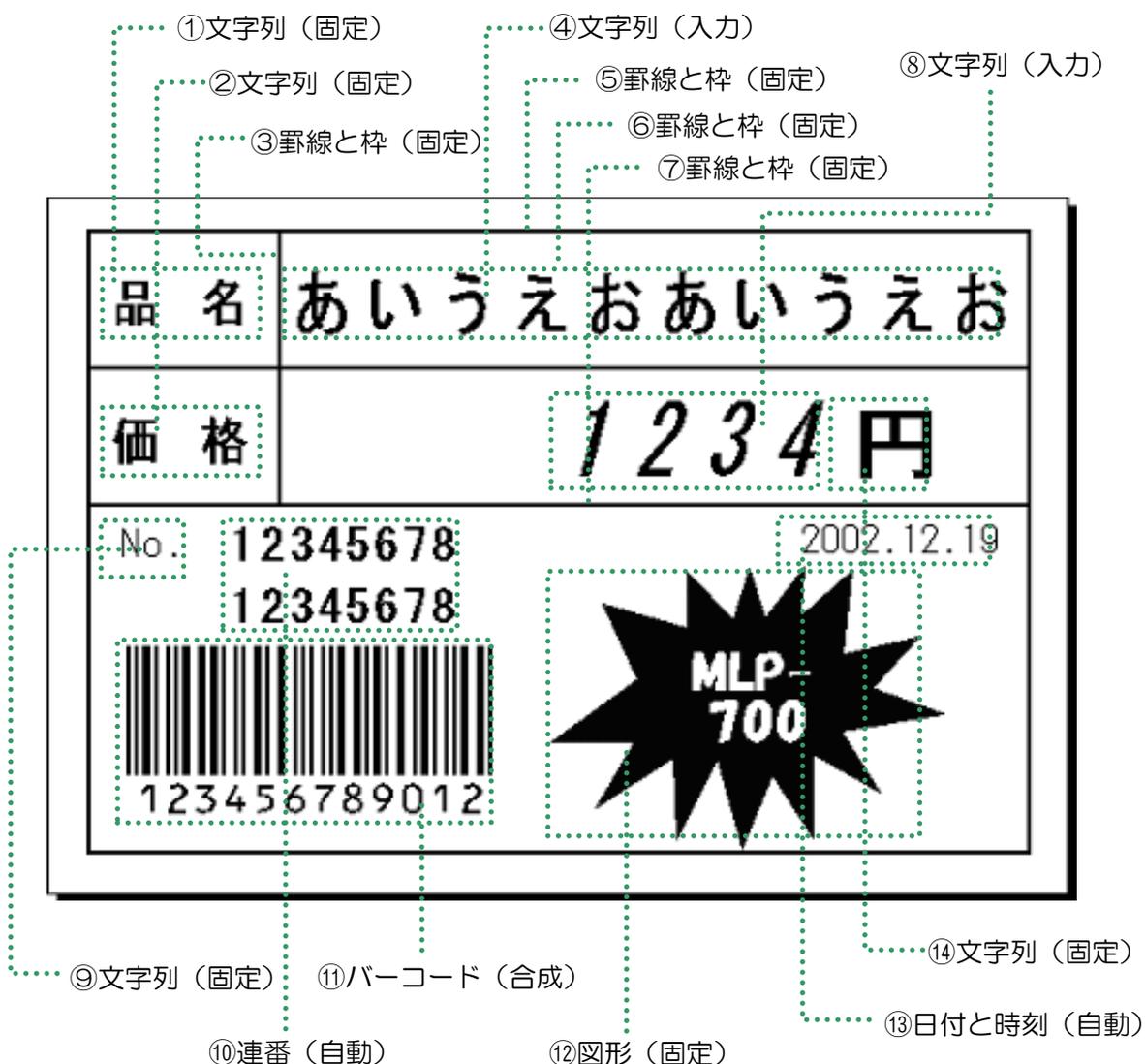
※2 一時的にデータを保存する記憶装置

アイテムの種類とその設定方法

フォーマット（ラベル）を構成するとは、ラベルの中にあるそれぞれ異なる内容や方式、また属性に対し、アイテムと呼ばれる「文字列」、「罫線と枠」、「バーコード」等（下の図 ①～⑭ 参照）を使って設定する事です。

下の図は、①～⑭ のアイテムで分割し、設定されています。その横には名称と属性を示しています。

【図2-2】



アイテムの分割

フォーマット作成とは、先にもご説明しましたが、アイテムを設定する事です。重要なのは、どの様にラベルのデザインを印字エリア（アイテムを表示、設定できるエリア）に分割するかと言う事です。分割の主な基準は次のようになります。

1. どのアイテムを使って表現するか、種類別に分割します。
例：「文字列」「バーコード」「図形」「日付」等
2. 同じアイテムでも属性別に分割します。
例：【図2-2】の①と④は同じ文字列ですが、「固定」と「入力」で分割します。
属性については追って説明します。
3. 同じアイテム・同じ属性でも印字の内容（項目）によって分割します。
例：【図2-2】の④と⑧には、同じデータベース（「商品 DB.dbs」ファイル）から取り出して印字させる設定になっていますが、取出す項目が「品名」と「価格」では違う為、分割します。
4. 印字方式によって分割します。
例：同じ固定の文字列でも、印字位置やフォントの大きさ、印字角度等の違いによって分割します。
5. 特殊処理によって分割します。
例：あるアイテムの演算結果や、関数処理によって、別のアイテムの設定が必要な場合に分割します。

属性

属性には「固定」「入力」「参照」「合成」の4つがあります。

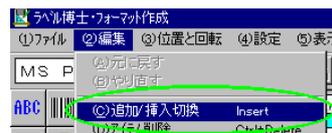
- | | |
|------|---|
| 「固定」 | 常に変わらないものに設定します。（文字、テキスト、タイトルなど） |
| 「入力」 | ラベル発行の時キーボードから入力する場合、又は登録されているデータベースファイルからデータを呼び出し入力する場合などに設定します。 |
| 「参照」 | 入力設定したアイテムを2ヶ所印字する場合、又は他のアイテムの一部分だけコピーして印字する場合に設定します。 |
| 「合成」 | いくつかのアイテムを組合せて印字する場合に設定します。 |

アイテムの設定モード

アイテムを設定する順番は、とても重要になります。これは、ラベルを発行する時にフォーマットに設定した順番で順次処理をする為です。

新しいアイテムの設定には、「追加モード」と「挿入モード」の2つの設定モードがあります。「追加モード」は、設定した新しいアイテムがアイテムリスト（リスト画面）の最後に追加されます。「挿入モード」では、選択したアイテムの前に挿入されます。

「追加モード」と「挿入モード」の切替は、メニューバーの「(2) 編集」から、「(C) 追加/挿入切替」をクリックする方法と、



ツールバーの「追加/挿入切替」ボタンをクリックする方法があります。



アイテム設定ボタン



文字列

最もよく使われるのがこの「文字列」アイテムです。ラベルに印字されるテキストやタイトル、文字や文章など、ほとんどは「文字列」によって設定されます。



バーコード

ラベルにバーコードを印字したい場合、このアイテムを選択します。「AP-700 フォーマット作成」が標準でサポートするバーコードの種類は15種類あります。



罫線と枠

ラベルに罫線（縦線、横線）、枠（長方形）を書きたい場合、ラベルのエリアを塗りつぶしたい場合に設定します。



日付と時刻

ラベル発行時に、自動でリアルタイムの日付と時刻を印字することができます。



有効期限

ラベル発行時に、指定した有効期限によってリアルタイムに期限切れの日付と時刻がラベルに自動印字することができます。過去（マイナス）や将来の有効期限の指定も可能です。



図形

ラベルに図面、写真、ロゴ、マーク、特殊記号などの図形を印字したい場合、このアイテムを設定します。現在「AP-700 フォーマット作成」は、ビットマップ形式（拡張子.bmp）、ジフ形式（拡張子.gif）、JPEG形式（拡張子.jpeg）の図形ファイルをサポートしています。他の形式による図形ファイルの場合は、上記ファイルに変換して下さい。



連番

ラベルに連番やカウンター、シーケンス番号、等間隔増減データなどを自動に印字させたい場合このアイテムを設定します。連番には3種類あり、外部グローバル連番とフォーマット連番は2つ、データベース連番は3つ提供します。

外部グローバル連番 → 全てのフォーマットやデータベースのアイテムが共通して使う連番。例えば、フォーマット①で連番 10 番までラベル発行した場合、フォーマット②の連番初期値は 11 番になります。グローバル連番の初期値や増減幅、上下限の設定は、プログラムの「ラベル発行」で行えます。連番は指定された範囲内で循環します。つまり最大値に到達すると最小値に戻ります。

フォーマット連番 → 各フォーマットがそれぞれ独自の連番を持ち、別のフォーマットには影響されません。フォーマット連番の初期値や増減幅、上下限の設定は、メニューの「(4)設定」→「(C)フォーマット連番設定...」で行えます。



データベース連番 → データベースの中にある連番。データベースの各アイテム連番が独立している為、互いに影響されずアイテムごとに連番を管理する事が容易になります。例えば、各アイテムに付き何枚のラベルを発行したか知りたい場合、各アイテムの連番を調べるといいでしょう。



演算データ

ラベル発行の処理上で2つのアイテムを演算する必要がある場合に、このアイテムを設定します。例えば、値段（重量×単価）、割引額（定価×割引率）、売り値（標準価格－割引金額）、発行枚数（総数量÷個口数）、伸び率（当日売上÷前日売上）など四則（＋－×÷）やA÷Bの余り、AのB乗などの6つの演算方法を標準に提供します。



集計データ

ラベル発行において、あるデータの合計を計算する事があります。例えば、今日一日でラベルを何枚発行したか、各商品がいくつ生産したか、肉の総重量はどのくらいか、今日の売上がいくらか、などを集計する場合があります。このようにデータを集計したい場合にこのアイテムを設定します。集計値をラベルごとに印字しても、まとめて集計ラベル（「挿入ラベル」をご参照下さい。）に印字してもいいです。ラベル発行時、集計値を自由にクリアする事ができます。



発行枚数

ラベル発行時に入力した発行枚数をラベルに印字したい場合に、このアイテムを設定します。ここでの注意は、単位個数が1でない場合、ラベル発行時に入力した発行枚数が総数量になる事です。総数量ではなく実際に発行されるラベル枚数を印字したい場合は、「実際に発行されるラベル枚数を取る」をチェックしなければなりません。



呼出データ

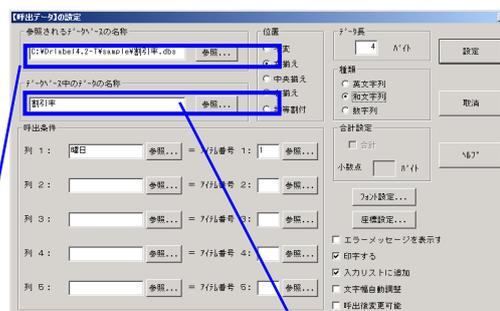
呼出データはとても柔軟性のあるアイテムです。ラベル発行時の処理過程は、指定した番号のアイテムからデータを取り、それを呼出条件としてデータベースから対応するアイテムのデータを呼び出し、そのアイテムデータから指定したデータ名称と一致するデータを抽出してラベルに印字します。つまり参照したデータを直接ラベルに印字するのではなく、それを使ってデータベースから別のデータを引っ張ってきてラベルに印字するので、言い換えれば呼出データは「テーブル参照データ」、「間接参照データ」になります。呼出データは主に次のような目的で利用されます。

- ◆ ある現象とその結果との間にあまり規則の

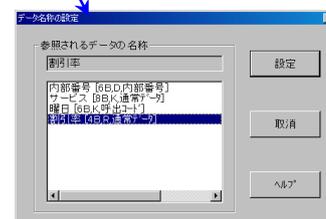
無い関係で結ばれていて、現象から計算や関数により結果を求めるのが困難で、テーブル参照しか求められない場合。例えば、国際電話料金の割引率が時間帯によって変わり、8時から18時までを0%、18時から23時まで20%、23時から翌朝8時まで40%とします。0時から23時ま

での割引率を事前にデータベースに登録しておけば、呼出データを用いて時間から簡単に割引率を求められます。その場合に時間だけを取るアイテム「日付と時刻」が呼出条件になります。

- ◆ ある現象とその結果との間に明確な規則があります。現象から計算するのが大変困難あるいは不可能で、テーブル参照によりある程度結果が求められる場合。例えば、角度に対する正弦値は、関数の中に正弦関数がまだ入れられないので計算できません。そこで、0度から360度の範囲をある間隔で切って、それぞれの角度に対応する正弦値をデータベースに登録しておけば、呼出データを用いて角度から簡単に正弦値を求められます。



番号	サービス	曜日	割引率
00001	国際電話	月	0.9
00002	国際電話	火	0.3
00003	国際電話	水	0.4
00004	国際電話	木	0.9
00005	国際電話	金	0.7
00006	国際電話	土	0.9
00007	国際電話	日	0.7
00008	携帯電話	月	0.5
00009	携帯電話	火	0.2
00010	携帯電話	水	0.7
00011	携帯電話	木	0.6
00012	携帯電話	金	0.5
00013	携帯電話	土	0.4
00014	携帯電話	日	0.7

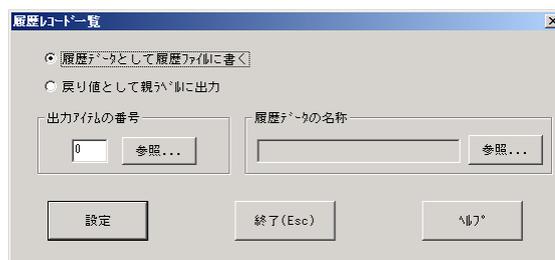


- ◆ データベース入力機能の拡張として利用する場合。「AP-700 フォーマット作成」では、1つのフォーマットに3つのデータベースからデータを取り出し印字することができますが、更にその3つのデータベース以外のデータベースからデータを取得したい場合、まずキーボードから入力する文字列アイテムを印字しないように設定します。次にその文字列を呼出対象として呼出データアイテムを設定します。そうすればラベル発行時、キーボードから呼出条件を入力してデータベースからデータを呼び出し印字することができます。



発行履歴（出力アイテム）

ラベル発行時にあるアイテムのデータの発行履歴を残したい場合、このアイテムを設定します。データ履歴を記憶すれば、後で発行作業のチェック、発行データの確認、レポートの発行、データの統計や分析を行うことができます。1つのフォーマットに履歴データを幾つでも設定することができ、どのデータの履歴も取ることができます。AP-700では履歴データは初期設定されている履歴構造ファイル（拡張子.HST）に基づいて作られる履歴データファイル（拡張子.HDT）で管理されます。よって、事前に履歴データを取りたいアイテムの項目を履歴構造ファイルに設定しておく必要があります。履歴アイテムを設定すると、右図のように【履歴データ】設定ダイアログが表示されるので、「履歴データとして履歴ファイルに書く」を選択し、次に履歴を取るアイテムを選択します。データの名称は参照ボタンを押すと「データ名称の参照設定」が表示されるので、ここから選択します。



履歴設定のほか、サブラベル（子ラベル）アイテム（P30）を使用する際に、メインとなるフォーマットへアイテムを出力する場合に選択し設定する項目、「戻り値として親ラベルに出力」も発行履歴アイテムに含まれています。出力アイテムとして設定する場合は、「データ名称」は手動で直接入力します。



自由斜線

ラベルに斜線を引きたい場合、このアイテムを設定します。



関数

関数とは、フィルタと同じで指定されたアイテムのデータ（文字列又は数字）に対して様々な変換を行うものです。例えば、文字列を左寄せ、右寄せにしたり、価格の数字列にカンマを挿入したり、削除したり、小数を整数に変換するなど。関数の変換結果は直接ラベルに印字しません。印字したい場合は、関数アイテムを参照する文字列アイテムを設定し、それを通してラベルに印字します。



楕円と扇形

ラベルに楕円と扇形を書きたい場合、このアイテムを設定します。



自由多角形

ラベルに多角形を書きたい場合、このアイテムを設定します。



QRコード ※ 二次元バーコード印刷機能はプロ版のみのサポートになります。

ラベルに二次元バーコード—QRコードを印字したい場合、このアイテムを設定します。QRコードに関する詳しい説明は、QRコードの規格書をご参考下さい。



PDFコード ※ 二次元バーコード印刷機能はプロ版のみのサポートになります。

ラベルに二次元バーコード—PDFコードを印字したい場合、このアイテムを設定します。PDFコードに関する詳しい説明はPDFコードの規格書をご参考下さい。



ジャンプ

ラベル発行の際、1つのフォーマットを使用するにあたってある特定のアイテムだけを印字したくないといった場合に対応するために、このアイテムを設定します。2つの比較する対象とその比較方法、そしてジャンプ先のアイテムを決め、条件が満たされると、指定したジャンプアイテムからジャンプ先のアイテムへ印字順番が飛び越えるという仕組みになっています。例えば、月曜日から日曜日まで毎日販売するいくつかの商品があり、火曜日だけはそれらの商品を特売価格で通常より安く値段を設定したい、というように、ある決められた条件に基づきラベルの印字内容を変更する必要がある時に便利なアイテムです。わざわざ別個のフォーマットを新規に作成する必要は無く、状況に応じた条件指定によってラベル内容も様々に変えることができます。



サブラベル

複数の異なるラベルで、ある部分が同じ内容であるときなど、フォーマット作成時に何度も同じ内容を入力する手間を省き、間違いなどを少なくするのに便利なアイテムです。共通する内容を子ラベルとして1つのフォーマットにまとめ、メインのラベル（内容やデザインの異なった）のフォーマットに差し込んで使います。



条件参照

ラベル発行の際、1つのフォーマット内で2つの比較する対象と、その比較方法、比較条件に対応する真・偽参照アイテムを設定して、印字する内容を選択する場合にこのアイテムを設定します。ジャンプアイテム同様に、1つのフォーマットで、ある決められた条件に基づきラベルの印字内容を変更する必要がある時に便利なアイテムです。

例として、「130円より高い商品には5点、それより安い商品には1点をラベルに印字する」とします。この場合、条件は「価格が130円より高い」として、この条件に対応する「真・偽」の答えが「5・1」となります。条件によって変わる「5・1」の数字は印字しない文字列としてフォーマットに設定します(図①アイテム9、10参照)。

①

番号	種類	属性	その他
001	枠線	固定	(1.0,0.9)-(48.8,49
002	枠線	固定	(1.0,47.8)-(48.8,3
003	文字	固定	(商品名)
004	文字	入力	(DB1, 商品名)
005	文字	固定	(価格)
006	文字	固定	(円)
007	文字	入力	(DB1, 価格)
008	文字	固定	(ポイント)
009	文字	固定	(5)
010	文字	固定	(1)
011	参照	参照	([No.007]>130.00000
012	文字	参照	(No.011,全体参照)
013	文字	固定	(きりとり線)
***	****	****	*****

文字列設定の時、 印字する に
チェックを入れないで設定します。



または、メニューの (6) アイテムから (X) 条件参照を選択すると、【条件参照】の設定ダイアログ (図②) が表示されます。比較される数値又は文字/参照アイテムの欄にそれぞれ比較するもの (ここでは、商品の価格が設定されているアイテム7と130円の数値) をそれぞれ入力します。比較種類は、>を選択して、アイテム7 (価格) が130円より高いという条件を設定します。

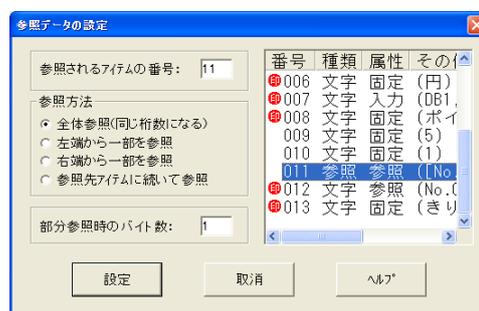
②

次に、この条件に対応する「真・偽」の参照アイテムを設定します。ここでは、条件通り、商品の価格が130円以上なら5になるので、「真」の参照アイテムにはアイテム No.009 を、以下なら1なので「偽」のアイテムにはアイテム No.010を設定します。最後にこの結果を印字させるために、文字列アイテムの属性を参照で設定し(下図③)、この【条件参照】(アイテム No.011)を参照されるアイテムとして設定します (図①のアイテム No.012)。



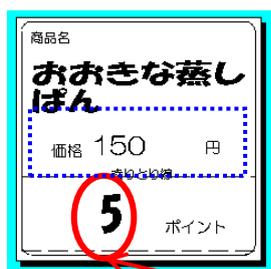
発行する際は、図④-1,2 のように呼び出される商品の価格によって、このひとつのフォーマットだけで、2種類の印字内容を自動的に選択して発行されます。

③



④ - 1

④ - 2



④-1 商品の価格>130円 なので 5

④-2 商品の価格>130円 なので 1



DATA MATRIX

ラベルに二次元バーコードDATA MATRIX (データコード) を印字したい場合、このアイテムを設定します。DATA MATRIX に関する詳しい説明はDATA MATRIX 規格書をご参考下さい。

フォーマットの作成 Part1

それでは、実際に幾つかのフォーマットを作成していきます。まず、P20の【図2-2】(Sample1.fmt)と同じ設定内容のフォーマットを作成していきます。この『Sample1.fmt』は「罫線と枠」、「文字列」、「連番」、「バーコード」、「日付と時刻」、「図形」、「関数」の7つのアイテムで構成されています。中には同じ「文字列」でも属性別で「固定」と「入力」とで別々の設定をします。それでは、まずラベルサイズから設定していきます。

ラベルサイズの設定

1

メニューバーの「(4)設定」をクリックし、「(A)レイアウト設定」を選択します。

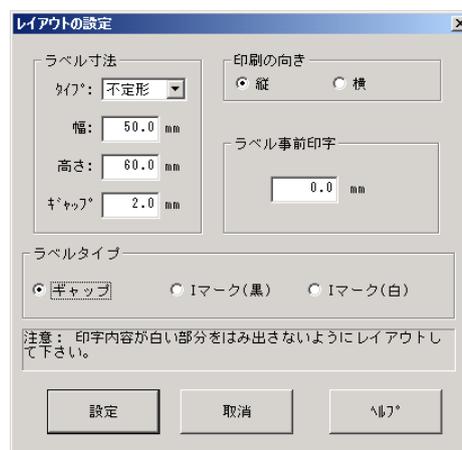


2

使用するラベルの横幅と長さをここで設定します。入力する数値は、半角文字になります。

- ・ラベル幅 —— 「50」
- ・ラベル長 —— 「60」

数値の入力が終了したら、**設定** をクリックします。



※ 詳しい設定項目については

ヘルプ をご参照下さい。

3

他の設定は、右の図と同じ設定にして、**設定** ボタンをクリックします。

データベースの設定

「機能」の所（P17「データベース機能」）でご説明しましたが、1つのフォーマットに、3つのデータベースファイルを呼び出す事ができます。【図2-2】（P20）は1つのデータベースファイル（「商品 DB.dbs」）が設定されています。それでは、同じように設定していきます。
※ データベースの設定は後からでもできます。

1

メニューバーの「(4)設定」をクリックし、「(B)データベース設定」を選択します。



2

1つのフォーマットに、3つのデータベースを参照することができます。ここで、データベースのファイル名を設定します。



— 直接入力する場合 —

ファイルの名前はパスを全て含めてください。

例えば：

「c:¥MPL-700¥sample¥商品 DB.dbs」
になります。

— 参照ボタンからの場合 —

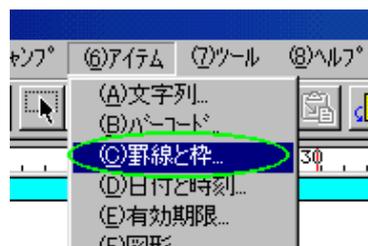
- ・「内部データベース参照」はMPL-700の「データベース管理」で登録されているファイルを参照します。



罫線・枠の設定

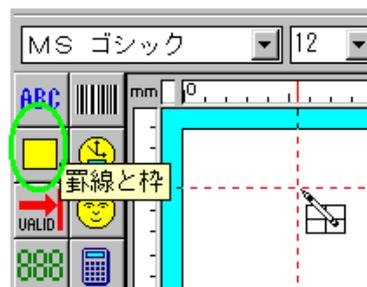
1

3行×2列の表を設定します。アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(6)アイテム」を選択し、「(C)罫線と枠...」をクリックします。



2

アイテム設定ボタンの場合はクリック後にレイアウト画面に移動すると右の図のようにマウスポインタの形が変わります。このポインタの状態から、ドラッグして枠のサイズを設定すると「罫線と枠」の設定画面が表示されます。メニューから選択した場合、設定画面は直ちに表示されます。



3

「表の構成」の行数に「3」を、列数に「2」を入力します。他の設定は、右の図と同じにして、設定ボタンをクリックします。



4

リスト画面・レイアウト画面は右の図のようになり、リスト画面の「(印)01:枠線 固定...」が選択されているので、レイアウト画面の枠も選択されています。

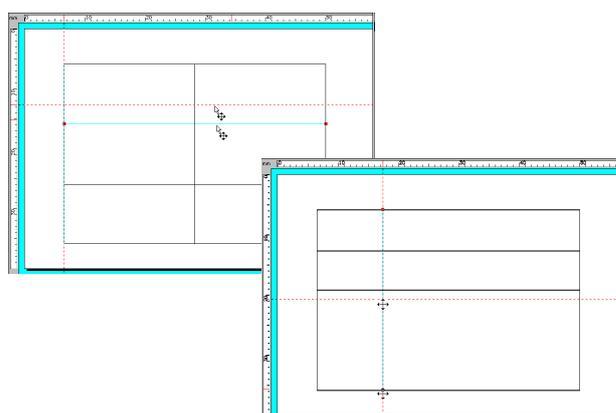
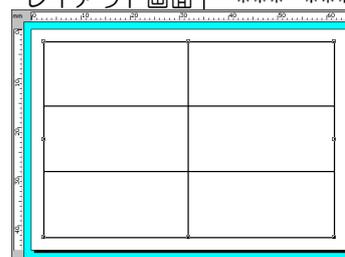


5

【図2-2】(P20)を参照しながら、1本ずつ罫線を選択し、ドラッグ操作で長さ、位置を合わせていきます。

右の図は選択された状態で罫線を移動していますが、選択されていない状態でも移動できます。

長さを変更する場合は、罫線を選択し、マウスポインタの形が、 この形になった事を確認してから変更を行ってください。マウスポインタが や 形の場合は、罫線が移動します。



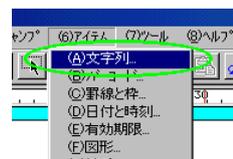
文字列の設定

ラベルに印字されるテキストやタイトル、文字や文章などほとんどは、「文字列」によって設定します。【図2-2】(P20)の①「価格」②「品名」③「No.」④「円」は常に変わらない文字列なので、**固定**に設定します。

—— 文字列が固定の場合 ——

1

アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(A)アイテム」を選択し、「(A)文字列...」をクリックします。



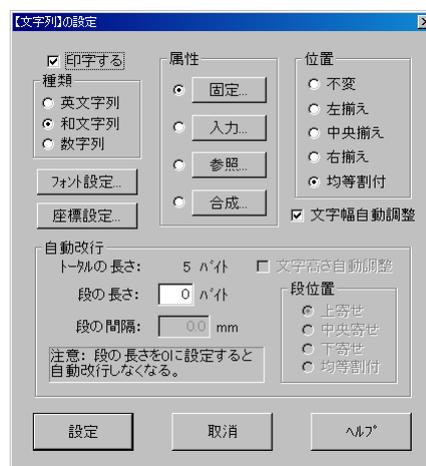
2

アイテム設定ボタンの場合は、クリック後にレイアウト画面に移動すると右の図のようにマウスポインタの形が変わります。文字列を挿入したい所でクリックすると「文字列」の設定画面が表示されます。



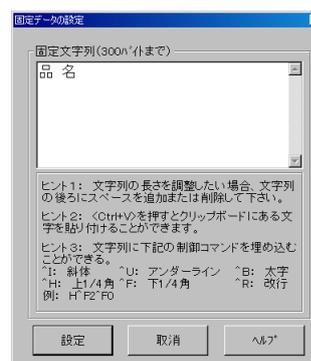
3

「属性」の **固定...** をクリックすると右下の図「固定データの設定」画面が表示されます。



4

固定文字列に「品名」と入力します。ここでは、少し見やすくするために、「品名」の間に半角スペースを挿入しています。入力が終了したら、**設定** ボタンをクリックし、「文字列の設定」画面に戻ります。



5

フォントの変更は、**フォント設定...** ボタンをクリックするとスタイル（太字、斜体）やサイズを変更することができます。

他の設定は、3の右図と同じにして、**設定** ボタンをクリックします。

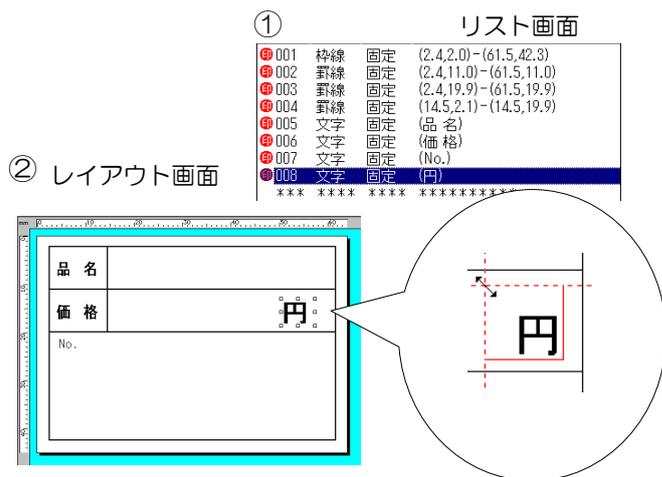
※ 詳しい設定項目については

ヘルプ をご参照下さい。

6

同じ手順で（1～5）「価格」「円」「No.」を設定します。右図のようになります。

フォントのサイズ変更は、セレクト枠（選択されている状態）のハンドルからでも縮小・拡大する事ができます。



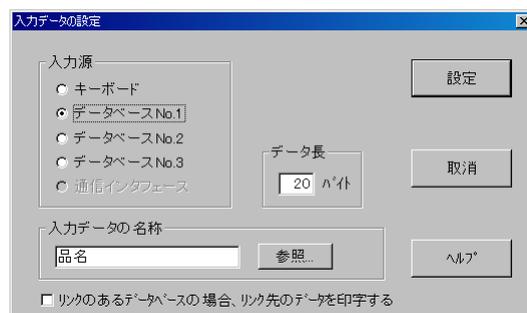
— 入力文字列の場合 —

右上図の ① ② に、既存のデータベースファイル「商品 DB.dbs」からデータを取り出し、印字させる設定をします。

7

入力文字列「品名」を設定します。（右上図①）

1、2と同じ手順で、「文字列の設定」画面が表示されます。「属性」の **入力...** をクリックすると右図「入力データの設定」画面が表示されます。**入力源***3は「データベースNo.1」を選択します。



*3 入力する元を、キーボードから入力するか、どのデータベース（「データベースの設定」の所で設定したファイルを示します。）から持ってくるかを選択します。

8

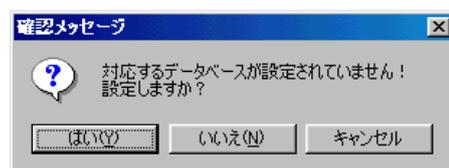
「入力データの名称」は必ず、データベースと同じものを入力して下さい。

例えば、データベースで「商品名」と登録している場合、「品名」ではなく、同じ「商品名」と入力して下さい。

データの名称が不安な場合は **参照...** ボタンをクリックすると「データ名称の設定」画面が表示されるので、一覧から選択して下さい。(右図)



※「データベースの設定」の所で、データベースファイルを設定していない場合は、右図のメッセージが表示されますので、「はい」をクリックして下さい。設定方法は「データベースの設定」をご参照下さい。



9

他の設定は、7の右図と同じにして、 **設定** ボタンをクリックします。

※ 詳しい設定項目については

ヘルプ をご参照下さい。

10

同じ手順で(7~9)「価格」を設定します。右図のようになります。

リスト画面

001	枠線	固定	(2.4,2.0)-(61.5,42.3)
002	罫線	固定	(2.4,11.0)-(61.5,11.0)
003	罫線	固定	(2.4,19.9)-(61.5,19.9)
004	罫線	固定	(14.5,2.1)-(14.5,19.9)
005	文字	固定	(品名)
006	文字	固定	(価格)
007	文字	固定	(No.)
008	文字	固定	(円)
009	文字	入力	(DB1,品名)
010	文字	入力	(DB1,標準価格)

*** **

レイアウト画面

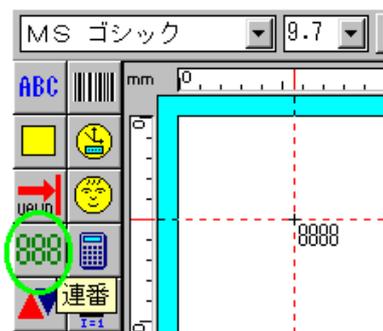
品名	あいうえおあいうえお
価格	1234円
No.	

連番の設定

ラベルに連番や、カウンター、シークエンス番号など、自動に印字させたい場合にこのアイテムを設定します。「アイテム設定ボタン」の所 (P17「連番機能」) でご説明しましたが、連番は3種類あり、グローバル連番とフォーマット連番は2つ、データベース連番は3つ設定できます。【図2-2】(P20)の⑩連番は「フォーマット連番」が設定されていますが、ここでもう1つデータベース連番を追加設定していきます。

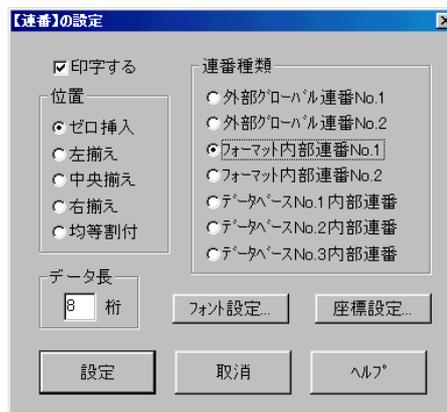
1

アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(G)アイテム」→「(G)連番...」をクリックします。右の図のようにレイアウト画面に移動するとマウスポインタの形が変わります。連番を挿入したい所でクリックすると「連番」の設定画面が表示されます。



2

1つ目は「フォーマット内部連番 No.1」を設定します。このフォーマットに対してだけの連番を表示させたい場合に選択します。
2つ目は「データベース No.1 内部連番」を設定します。データベースファイル(「商品DB.dbs」に商品連番が登録されています)から連番を取り出し印字させたい場合に選択します。連番種類を選択したら、「設定」ボタンをクリックします。(連番種類は複数選択できないため、1つずつ設定してください。)



3

右図のようになります。

※ 詳しい設定項目については ヘルプ をご参照下さい。

リスト画面

001	枠線	固定	(2,4,2,0)-(61,5,42,3)
002	罫線	固定	(2,4,11,0)-(61,5,11,0)
003	罫線	固定	(2,4,19,9)-(61,5,19,9)
004	罫線	固定	(14,5,2,1)-(14,5,19,9)
005	文字	固定	(品名)
006	文字	固定	(価格)
007	文字	固定	(No.)
008	文字	固定	(円)
009	文字	入力	(DB1,品名)
010	文字	入力	(DB1,標準価格)
011	連番	自動	(7桁以内内部連番No.1)
012	連番	自動	(7桁以内内部連番)

レイアウト画面

品名	あいうえおあいうえお
価格	1234円
No.	12345678
	2345678

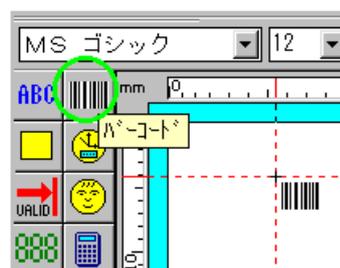
バーコードの設定

「MLP-700 フォーマット作成」では、現在よく使われている13種類のバーコードを、ラベルに印字することができます。各バーコードの詳細説明は、ヘルプをご参照下さい。

【図2-2】(P20)の⑪バーコードは「合成」の設定になっています。機能の所(P17「機能」)でもご説明しましたが、合成とは幾つかのアイテムを組合せたものです。ここでは、前のページで設定した、「データベース連番」と「文字列(入力)→価格」を組合せたバーコードを設定していきます。

1

アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(Ⓔ)アイテム」→「(B)バーコード...」をクリックします。アイテム設定ボタンの場合、右の図のようにレイアウト画面に移動するとマウスポインタの形が変わります。バーコードを挿入したい所でクリックすると「バーコード」の設定画面が表示されます。



2

ここでは、今まで設定してきたアイテムを組合せて「合成」のバーコードを作成していきます。それでは、右図と同じにして **合成...** ボタンをクリックして下さい。



3

組合せたいアイテムを一覧の中から選択していきます。バーコードは半角英数(ローマ字・数字)しかサポートしていないので、10番と12番のアイテムの合成を設定していきます。



※ 詳しい設定項目については **ヘルプ** をご参照下さい。

レイアウト、リスト画面は、右図のようになります。

リスト画面

001	枠線	固定	(2,4,2,0)-(61,5,42,3)
002	枠線	固定	(2,4,11,0)-(61,5,11,0)
003	枠線	固定	(2,4,19,0)-(61,5,19,0)
004	枠線	固定	(14,5,2,1)-(14,5,19,9)
005	文字	固定	(品名)
006	文字	固定	(価格)
007	文字	固定	(No.)
008	文字	固定	(円)
009	文字	入力	(DB1, 品名)
010	文字	入力	(DB1, 標準価格)
011	連番	自動	(データベース内部連番No.1)
012	連番	自動	(データベースNo.1内部連番)
013	関数	参照	(データベースNo.1内部連番)
014	バー	合成	(データベースNo.1内部連番)

レイアウト画面



図形の設定

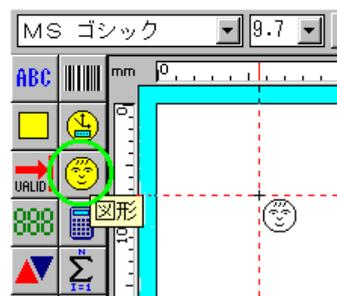
ラベルに図面や写真、ロゴ、マーク、特殊記号などの図形を印字することができます。

「MLP-700 フォーマット作成」は、ビットマップ形式（拡張子.bmp）、ジフ形式（拡張子.gif）、JPEG形式（拡張子.jpeg）の図形ファイルをサポートしています。他の形式による図形ファイルの場合は、上記ファイルのいずれかに変換して下さい。

【図2-2】(P20)の ⑫ 図形は、「C:\¥MLP-700¥sample」フォルダの中に「図形 1.bmp」ファイルがありますので、その図形ファイルを使用し、「固定」の設定をしていきます。

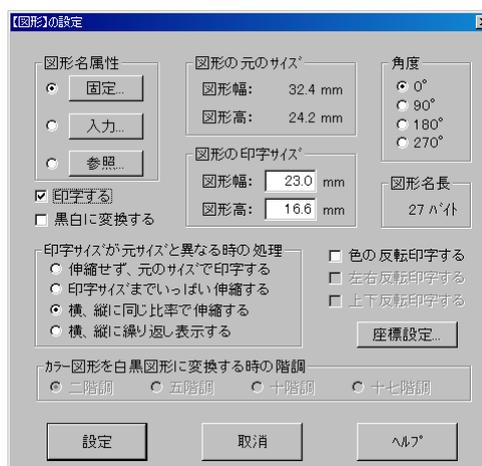
1

アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(E) アイテム」→「(F) 図形...」をクリックします。右の図のようにレイアウト画面に移動するとマウスポインタの形が変わります。図形を挿入したい所でクリックすると「図形」の設定画面が表示されます。



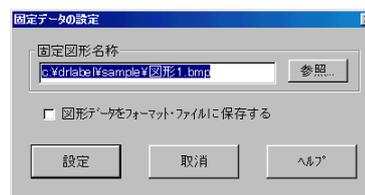
2

固定の図形を設定するので、「固定...」ボタンをクリックします。



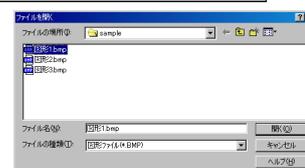
3

C:\¥AP-700¥sample フォルダの中に「図形 1.bmp」がありますので、「固定図形名称」欄に直接入力し、「参照...」ボタンをクリックしファイルを指定して下さい。図形のファイル名が入力されたら、「設定」ボタンをクリックし、「図形の設定」画面に戻ります。



4

他の設定は、右上の図と同じにして、「設定」ボタンをクリックします。



※ 詳しい設定項目については
を 
ご参照下さい。

5

レイアウト、リスト画面は、右図のようになります。

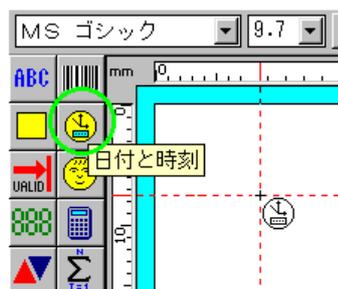
日付と時刻の設定

ラベル発行時に、リアルタイムの日付と時刻がラベルに、自動印字できます。

【図2-2】(P20)の⑬日付と時刻は、西暦を印字させた形式ですが、他にも色々な形式に設定する事ができます。

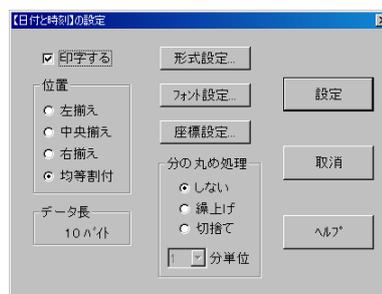
1

アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(Ⓔ アイテム) → 「(D) 日付と時刻...」をクリックします。アイテム設定ボタンの場合は、右の図のようにレイアウト画面に移動するとマウスポインタの形が変わります。日付・時刻を挿入したい所でクリックすると「日付と時刻」の設定画面が表示されます。



2

形式設定... ボタンをクリックします。



3

「日付と時刻の印字形式の設定」画面が表示されます。表示させたい形式をクリックします。この中に無い文字を入力したい場合は、追加ボタンの上(① 図)に文字を入力し、追加ボタンをクリックします。

② 図のように表示されます。

形式設定が終了したら、設定ボタンをクリックし、「日付と時刻の設定」画面に戻ります。



4

他の設定は、右上の図と同じにして、設定ボタンをクリックします。

※ 詳しい設定項目については ヘルプ をご参照下さい。

レイアウト画面

リスト画面

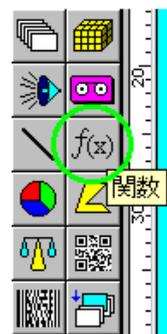
008	文字	固定	(円)
009	文字	入力	(DB1, 品名)
010	文字	入力	(DB1, 標準価格)
011	連番	自動	(7-7桁内部連番No.1)
012	連番	自動	(7-7桁No.17内部連番)
013	バー	合成	(No.010+012+000+000+000)
014	図形	固定	(c:%drlabel%sample%図形1.bmp)
015	日時	自動	(2002.12.19)

関数の設定

バーコードの種類を「Interleaved2 of 5」に設定している為、「関数の設定」をする必要があります。関数は文字列・数字に対して様々な変換を行います。ヘルプでも説明されていますが、「Interleaved2 of 5」バーコードは、表現できる記号が数字だけの為、スペース（空白）はサポートされません。10番アイテムの「標準価格」は4バイトに設定されています。つまり「標準価格」が4桁の場合、バーコードは正常に表示されますが、2桁（2バイト）、3桁（3バイト）の場合は、桁数が足りない分がスペースとなり、バーコードが正常に表示できません。その為、スペースになってしまう所に「0」を挿入する設定をしていきます。

1

アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(G)アイテム」→「(P)関数...」をクリックすると「関数」の設定画面が表示されます。

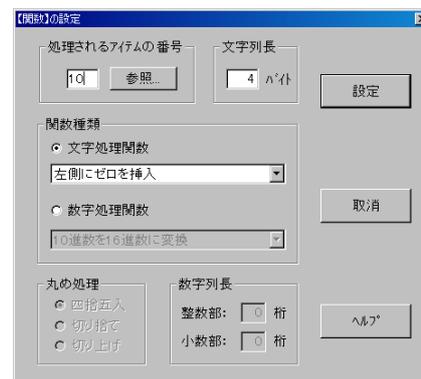


2

処理されるアイテム番号の **参照...** ボタンをクリックします。

3

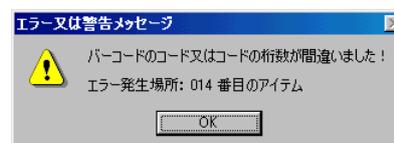
参照データの設定一覧から「010：文字入力（DB1,標準価格）」を選択すると、処理されるアイテムの番号の所に「10」と入力されます。**設定** ボタンをクリックし、「関数の設定」画面に戻ります。

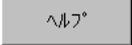


4

他の設定は、右上の図と同じにして、**設定** ボタンをクリックします。

※「文字列長」は参照されるアイテム（10番）が設定したバイト数が表示されます。バイト数を変更する事もできますが、ここでの注意点は、「Interleaved2 of 5」バーコードは「偶数」でなければいけない為、4バイト→5バイトに変更すると右図にあるエラーメッセージが表示されます。



※ 詳しい設定項目については  を
ご参照下さい。

5

設定後、リスト画面は右図のようになります。

6

バーコードが No.012 と No.10 の合成になっているので、No.012 と No.16 の合成に修正します。

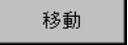
リスト画面の「013:バー合成」をWクリックし、「バーコードの設定」→合成ボタン→合成されるアイテム2の番号:40 →16へ変更→設定ボタンをクリックします。(サンプルではNo12とNo16を順番に設定し直しています。)

7

アイテムの順序を移動します。
これはラベル発行する時、フォーマットに設定した順番でアイテムを順次処理する為、「013:バー合成」の参照先である「016:関数参照」を前に移動する必要があります。

リスト画面で「016:関数参照」をクリックし選択した状態で、メニューバーの「(2)編集」→「(G)アイテム順序移動...」をクリックします。

8

「移動先の指定」画面が表示されますので、右図のように選択し、 ボタンをクリックして下さい。
バーコードの上に挿入されます。

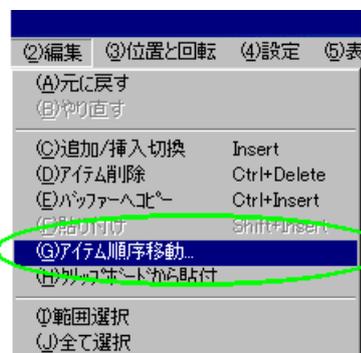
リスト画面

009	文字	入力	(DB1, 品名)
010	文字	入力	(DB1, 標準価格)
011	連番	自動	(フォーマット内部連番No.1)
012	連番	自動	(データノズルNo.1内部連番)
013	バー	合成	(No.010+012+000+000+000)
014	図形	固定	(c:%drlabel%sample%図形1.bmp)
015	日時	自動	(2002.12.19)
016	関数	参照	(No.010,左側にゼロを挿入)

印字されないアイテムは  が頭につきません。

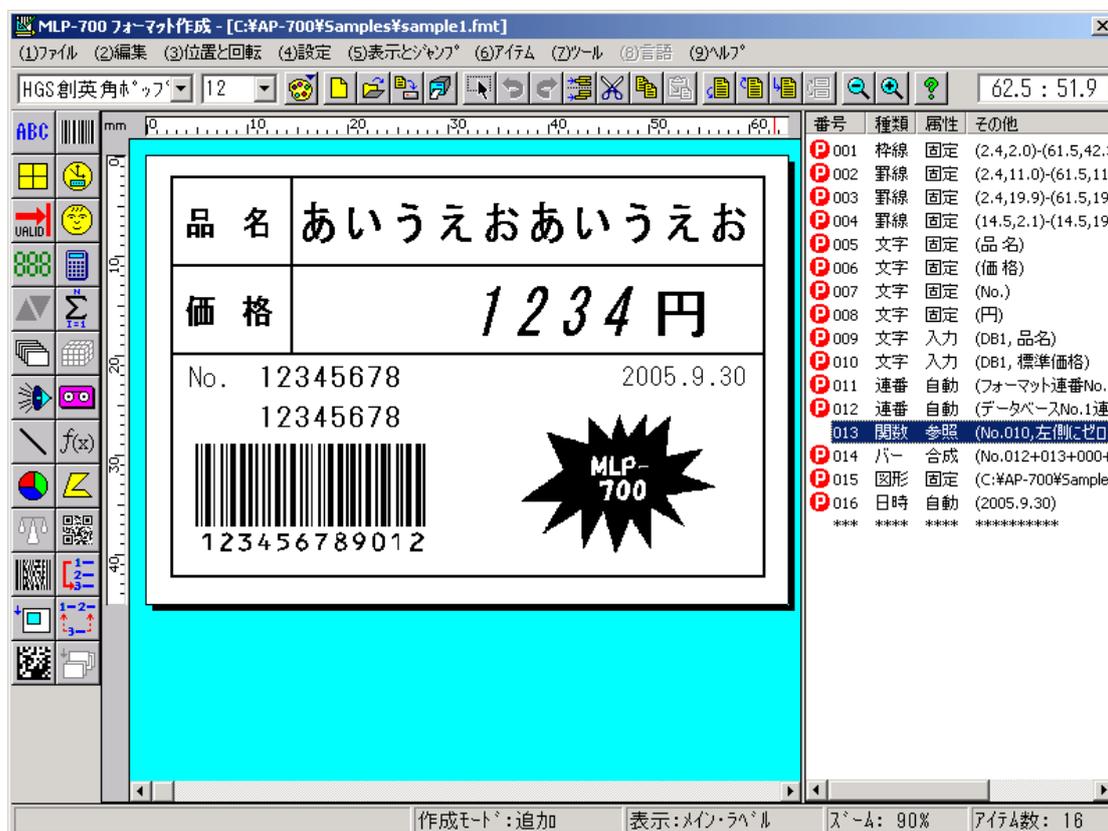


011	連番	自動	(フォーマット内部連番No.1)
012	連番	自動	(データノズルNo.1内部連番)
013	バー	合成	(No.011+016+000+000+000)
014	図形	固定	(c:%drlabel%sample%図形1.bmp)
015	日時	自動	(2002.12.19)
016	関数	参照	(No.010,左側にゼロを挿入)



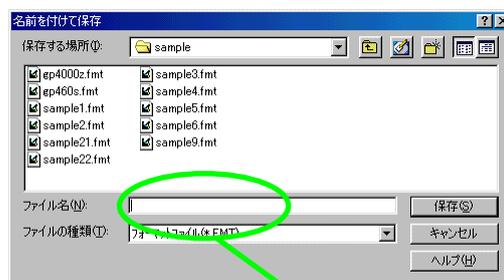
フォーマットの保存

それでは、【図2-2】(P20)と同じフォーマットの設定が終了したので、保存をしていきます。



1

メニューバーの「(F)ファイル」を選択し、「(D)名前をつけて保存...」をクリックします。



2

ここに「sample.fmt」と入力をして、
 ボタンをクリックします。



フォーマットの作成 Part2

『フォーマット作成 Part1』では、実際に幾つかのアイテムを設定しながら大まかな流れを説明してきましたが、大分感じがお分かり頂けたと思います。

さて、Part2 では、Part1 に出てこなかったアイテムを使ったり、又 Part1 で出てきてたアイテムで違う属性を設定して色々なフォーマット（ラベル）の作成を、『～をしたい場合』として説明していきます。それでは「c:¥AP-700¥Sample」にある「Sample2、3.fmt」（下図）、他「Sample6、22」を参照しながら設定をしていきます。



「Sample2.fmt」

「Sample3.fmt」



計算結果を印字させたい場合

例えば、「Sample2.fmt」にある『定価 135 円のところ 130 円』のように「定価 - 値引き額」を計算して、値引き後の金額（計算結果）を印字させたい場合、「演算データ」アイテムを使います。それではまずアイテムの構成を見ていきましょう。



1

右図①のリスト画面を見てください。「No.006」～「No.008」までは「文字列」アイテムが設定されています。フォーマット作成 Part1 でも文字列の設定をしているのでお分かりだと思います。

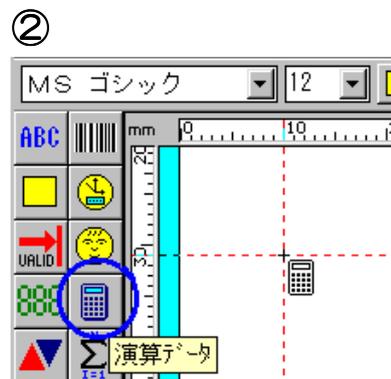
「No.006」は属性が「入力」で、DB1（データベース 1）にある「標準価格」からデータ呼び出しして印字します。「No.007」は属性が「固定」。そのままラベルに「円のところ」と印字される部分です。「No.008」は属性が「入力」で、DB1にある「値引き額」から呼び出します。このとき、「No.」の前に「印」が無いので印字されませんが、これは次の「No.009」の「演算データ」が参照するのに必要になります。

①

No.	属性	タイプ	参照先
006	文字	入力	(DB1, 標準価格)
007	文字	固定	(円のところ)
008	文字	入力	(DB1, 値引き額)
009	演算	参照	(No.006-No.008)
010	文字	固定	(円)

2

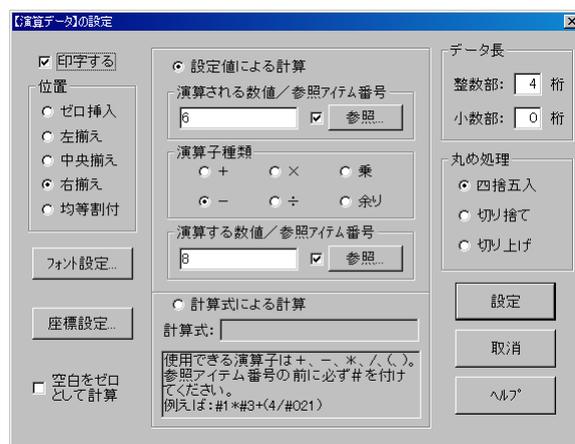
「演算データ」の設定はアイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(6) アイテム」→「(H) 演算データ...」をクリックします。アイテム設定ボタンの場合、右図のようにレイアウト画面に移動するとマウスポインタの形が変わり、もう一度クリックすると、「計算データの設定」の画面が表示されます。



3

「演算される数値/参照アイテム番号」の下には、「6」と入力され、 になっています。これは6番目のアイテムを参照する事を示しています。「参照」ボタンをクリックすると、一覧（参照データの設定画面は P48 にあります。）が表示されるので、「6」を選択します。

③



演算子種類は「-」にチェックし、「演算する数値/参照アイテム番号」は上と同じように、「参照」ボタンをクリックし、一覧から「8」を選択します。

※ **参照...** ボタンの横が になっていないと、アイテム番号ではなく「6-8」となり演算結果は「-2」になります。

4

他の設定は、P45の図③と同じにして、

設定 ボタンをクリックします

※ 詳しい設定項目については **ヘルプ** をご参照下さい。



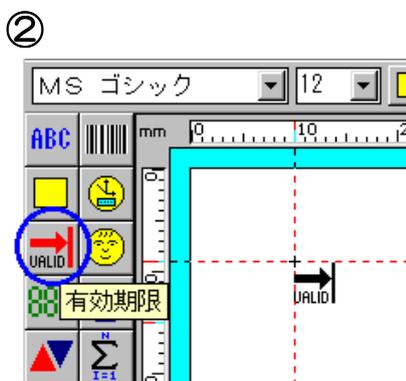
賞味期限を印字させる場合 1

あらかじめ「賞味期限」が登録してあるデータベースファイルからデータを読み出し、例えば右図①のように『賞味日』を印字させたい場合、「有効期限」アイテムを使います。



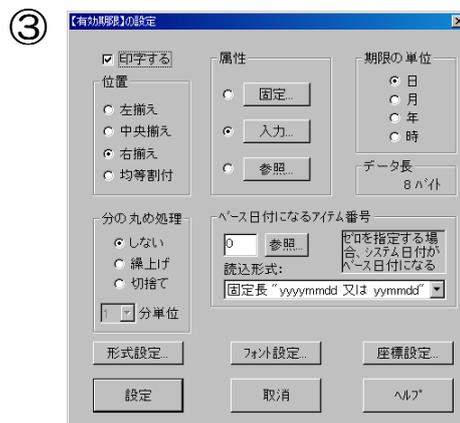
1

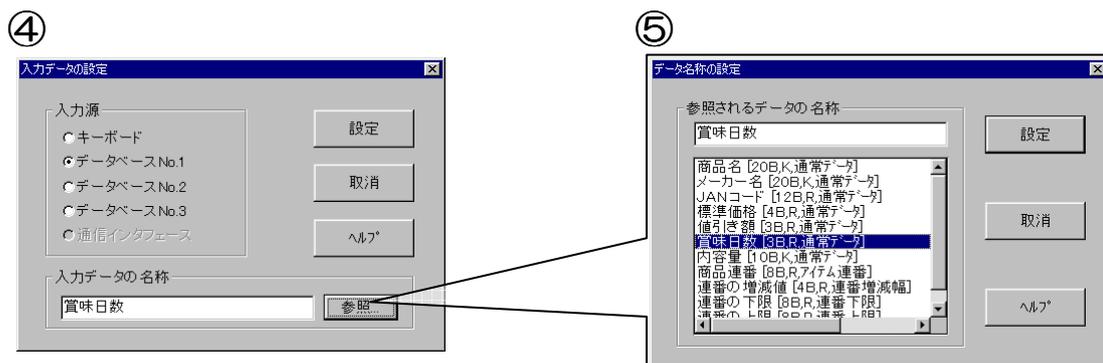
「有効期限」の設定は、アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(6)アイテム」→「(E)有効期限...」をクリックします。アイテム設定ボタンの場合、右図のようにレイアウト画面に移動するとマウスポインタの形が変わり、もう一度クリックすると、「有効期限の設定」の画面が表示されます。



2

「属性」の設定は、「入力」が選択されています。(図③) **入力...** ボタンをクリックすると「入力データの設定」画面が表示され、「データベースNo.1」に設定されている「商品 db2.dbs」中の「賞味日数」からデータを読み出す事を示しています。(P47-④、⑤を参照。)





3

「期限の単位」の設定は、「商品 db2.dbs」で賞味日数を登録しているため、「日」を選択します。もしもデータベースに「年数」や「月数」単位で登録している場合は、「期限の単位」もその単位を選択して下さい。誤ってしまうと有効期限が正常に印字されません。



4

図③ (P46) の「有効期限の設定」にある「形式設定...」ボタンをクリックすると、フォーマット作成 Part1 に出てきた「日付と時刻の印字形式の設定」画面が表示されます。(P40「日付と時刻の設定」 Part1 と同じように形式を選択していく訳ですが、ここで補足説明をします。

「日付と時刻の印字形式の設定」画面に「注意:」があります。

「OXX」とは で囲ってある数値を示しています。

例えば、「日」の「O21」は一見不自然に思われますが、「O21」を選択すると、日付が「1~9」のような1桁の場合は、「O1~O9」と表示されます。つまり、1桁の場合「O」を挿入した形で表示する設定になります。もちろん、2桁の場合(例:10~31)は「O」は挿入されません。

⑥



5

他の設定は、図③と同じにして、 ボタンをクリックします。

※詳しい設定項目については をご参照下さい。

賞味期限を印字させる場合 2

少し複雑な賞味期限の設定をしたいと思います。設定したアイテムを計算（演算）して、その結果を賞味期限として印字させます。例えば、データベースファイルに「賞味日数」が「120」と登録されているアイテムがあるとして、このアイテムをラベル発行する時に、賞味日数を「30日」プラスした数で印字したい場合、直接キーボードより入力すると、「120+30=150 日後」の日付が印字されるように設定します。

1

図①リスト画面を見ると、「No.015(有効期限)」の属性は「参照」に設定されています。参照先は「No.014 演算」になり、更に、「No.012 文字列 (DB1)」と「No.13 文字列 (KEY)」を参照し、計算する設定になっています。

①

012:文字 入力 (DB1, 賞味日数)
013:文字 入力 (KEY, 調整日数)
014:演算 参照 (No.012+No.013)
●015:期限 参照 (No.014) (99.06.02)

2

「文字列」の設定は、属性は「入力」を選択し、「No.012」はデータベースから、「No.013」はキーボードから入力をする設定になっています。

②

設定値による計算

演算される数値/参照アイテム番号

12 参照...

演算子種類

+ × 乗

- ÷ 余り

演算する数値/参照アイテム番号

13 参照...

3

「No.014」の「演算データ」は、(P45の2、3参照)「演算される数値/参照アイテム番号」を「12」、「演算する数値/参照アイテム」を「13」にして、「演算子種類」は「+」を選択します。

4

「有効期限」の設定は、(P46の1、2を参照)属性は「参照」を選択→参照されるアイテムは「No.014 演算参照」を選択→「設定」ボタンをクリックして→「有効期限の設定」画面に戻り、設定ボタンをクリックします。

③

参照データの設定

参照されるアイテムの番号: 14

番号	種類	属性	その他
009	演算	参照	(No.006-No.008)
010	文字	固定	(円)
011	日時	自動	(2.12.24)
012	文字	入力	(DB1, 賞味日数)
013	文字	入力	(KEY, 調整日数)
014	演算	参照	(No.012+No.013)
015	期限	参照	(No.014) (02.12.24)
016	多角	固定	18角形(73.0,17.0)-(102....

設定 取消 ヘルプ

5

「ラベル発行」画面で確認すると、データベースにある「無塩野菜ジュース」の賞味日数は「30」と登録されている事が分かります。その下の調整日数は、例えばキーボードで「30」と入力するとその値が表示されます。図④-2は、「DB1 (30)」+「KEY (30)」=「60」日後の日数が表示されている事が分かります。

※ 賞味期限の変更が無く、データベースに登録されている日数をそのまま印字させるには、「調整日数」に「0」と入力して下さい。空白の状態では正しく賞味期限が印字されません。

長い文字列を分割して印字する場合

例えば、80 バイト（全角文字で 40 文字）の文字列をラベルに印字したい場合、フォントの設定（サイズ、スタイル）によって多少違いがありますが、決められたラベルサイズ範囲内で全てを印字するのは難しいでしょう。しかし80バイトの文字列を例えば、20バイトずつ4つに分割する事によって印字する事が可能になります。（「Sample3.fmt」参照）
 それでは、アイテムの構成を見ていきましょう。

1

図①を見ると、「No.004」の文字列は印字無しでキーボード入力する設定になっています。「No.004 文字列」の「入力データの設定」(図②)画面にある「データ長」を見ると「80」バイトに設定してあります。これは、「No.005」～「No.008」で設定する文字列を分割して印字する内容（文字数）を示しています。

①

004:文字	入力 (KEY, コメント)
005:文字	参照 (No.004,左から参照)
006:文字	参照 (No.005,継続参照)
007:文字	参照 (No.006,継続参照)
008:文字	参照 (No.007,継続参照)

②



2

「文字列」は今までにたくさん設定してきましたが、「No.005～No.008」の文字列は属性を「参照」に設定します。図③は、「参照」ボタンをクリック後、表示される「参照データの設定」画面です。この図③は、「No.005 文字列」の設定内容を示しています。キーボードから入力した文字（「No.004 文字入力 (KEY)」で設定）の「左端から一部参照」（80バイト中20バイト分の文字）して印字する設定になっているのが分かります。「部分参照時のバイト数」は、キーボードから入力された文字の左端から、何バイトを印字するかを入力します。

③

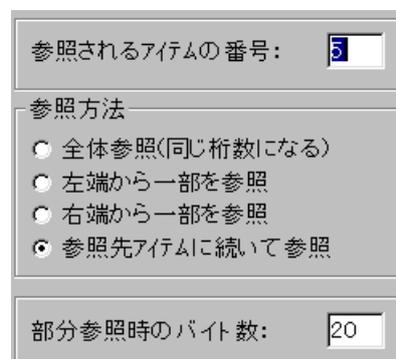


3

図④は「No.006」の参照データ設定画面です。

「No.006~No.008」の文字列設定では、「参照されるアイテムの番号」のところに、参照したいアイテム番号を入力します。ここでは、「No.005」を参照したいので、「5」が入力されています。「参照方法」は「No.005」の続きを印字させたいので、「参照先アイテムに続いて参照」を選択し設定ボタンをクリックします。「No.007」、「No.008」も同じように設定すると、80バイトの長い文字列が、分割された4つの文字列に、続けられて印字されます。

④



4

文字列の設定画面に戻り、「フォント設定...」をクリックすると、図⑤の画面が表示されます。

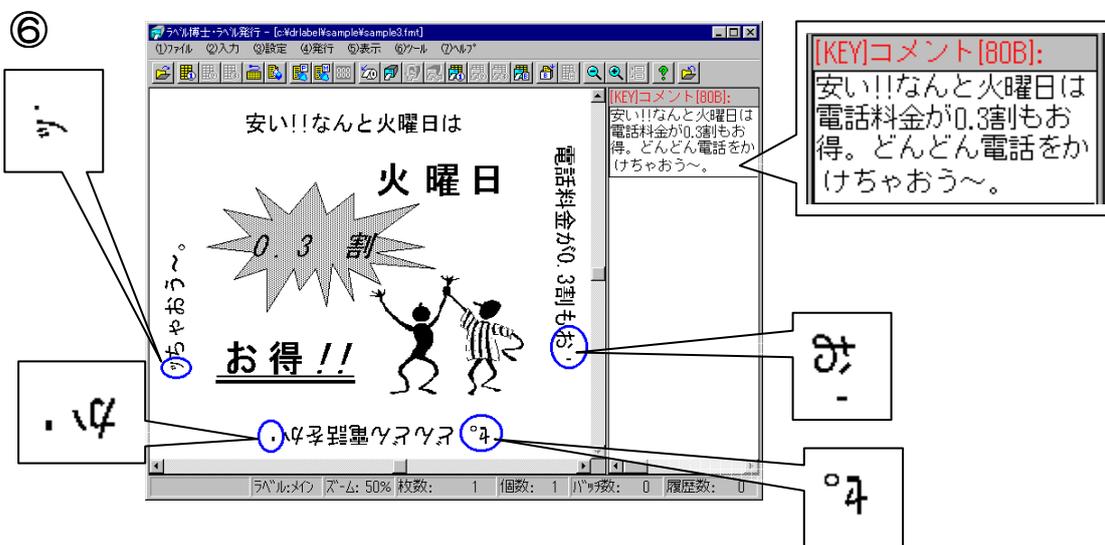
「Sample3.fmt」のように文字に角度をつけて印字したい場合は、右図にある「角度」から選択して下さい。指定した角度のレイアウト表示がされます。

⑤



5

「No.005~No.008」の文字列を、プログラム「ラベル発行」を起動しコメントを図⑥のように入力して画面で確認します。レイアウト画面を良く見ると、文字列の内容が一部正常に印字されていないところがあります。



これは、全角文字や半角文字が入っている為です。

図⑥と同じコメントを正常に印字させるためには、スペースを入れて調整します。例えば、「電話料金が0.3割もお得。」中の「0.3」の前に半角スペースを挿入すると調整できて正常に表示されます。他の文字列も、同じ要領で調整すれば正常に文字が印字されます。

図形の設定（データベースに登録されている場合）

図形の設定は、フォーマット作成 Part1 (P38) に出てきましたが、属性を「入力」に設定し、データベースにあらかじめ登録されている「図形ファイル」を呼び出して印字させていきたいと思えます。

1

「c:¥AP-700¥sample¥sample1.fmt」で設定した図形は、「固定」に設定されていますが、属性を「入力」に変更します。右図①にあるリスト画面から「No. 015 図形固定」をWクリックし、「図形の設定」画面を表示します。

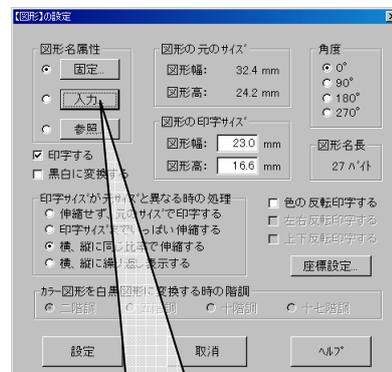
①

①014	バー	合成	(No.012+013+000+000+000)
①015	図形	固定	(c:¥drlabel¥sample¥図形1.bmp)
①016	日時	自動	(2002.12.24)

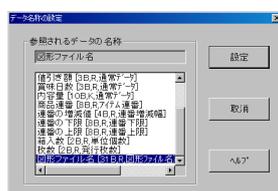
2

「図形名属性」は「入力」をクリックします。「入力データの設定」画面が表示されるので、「データベースNo.1」を選択(図②-1)し、「参照」ボタンをクリックします。一覧(図②-2)が表示されるので、「図形名」(属性が「図形ファイル名」のデータ項目)を選択し、設定ボタンをクリックします。入力データの名称の所に選択されたデータ項目の名称が表示されます。(図②-3)

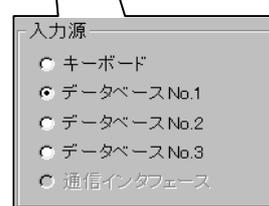
②



②-3



②-2



②-1

3

リスト画面は右図③のようになります。

③

①014	バー	合成	(No.012+013+000+000+000)
①015	図形	入力	(DB1, 図形ファイル名)
①016	日時	自動	(2002.12.24)

金額を集計したい場合

ラベル発行した商品の合計金額を知りたい場合、集計データを設定します。(「sample22.fmt」参照)

1

「集計データ」の設定は、アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(G) アイテム」→「(J) 集計データ...」をクリックします。「集計データの設定」の画面が表示されます。



2

図①の「集計されるアイテムの番号」は、「9」が入力されています。これは「No.009 演算参照」で計算された「価格」を集計する事を示しています。「位置」や「データ長」など他の設定は図①と同じにします。

※集計結果をラベルに印字しない場合は「印刷する」のチェックを外します。

②

3

リスト画面は右図②のようになります。

009	演算	参照	(No.006-No.008)
010	文字	固定	(円)
011	日時	自動	(2.12.24)
012	期限	入力	(KEY, 調整日数) (02.12.24)
013	多角	固定	18角形(44.0,15.0)-(73.0,33.4)
014	文字	固定	(安い!)
015	文字	入力	(DB2, 会社名)
016	文字	固定	(製造日:)
017	文字	固定	(賞味日:)
018	文字	固定	(No.)
019	集計	参照	(No.009)

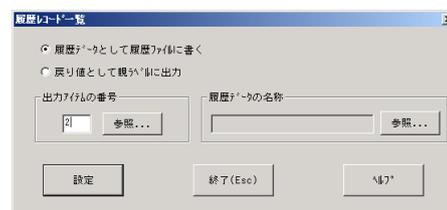
ラベル発行時の履歴を取りたい場合

例えば、どの商品を、何枚、いつ発行したか等、履歴を取りたい場合「発行履歴」アイテムを設定します。

1

「発行履歴」は、アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(G) アイテム」→「(N) 発行履歴...」をクリックします。「履歴データの設定」の画面が表示されます。

①



2

図①、②は「sample22.fmt」の設定とリスト画面を示しています。図①の「履歴を取るアイテムの番号」横の「参照」ボタンをクリックすると、図③の一覧が表示されます。ここでは、「商品名」の履歴を取りたいので、「No.002」を選択し、「設定」ボタンをクリックします。図②の「データ名称」は参照をクリックすると図④「データ名称の参照設定」の表示がでるので、その中から選択します。AP-700では、履歴構造ファイル（拡張子.HST）を元に履歴をとるので、予め履歴をとりたいデータ項目を設定して、データ名称をつけておきます（この設定の方法は第4部 履歴データ管理を参照ください）。

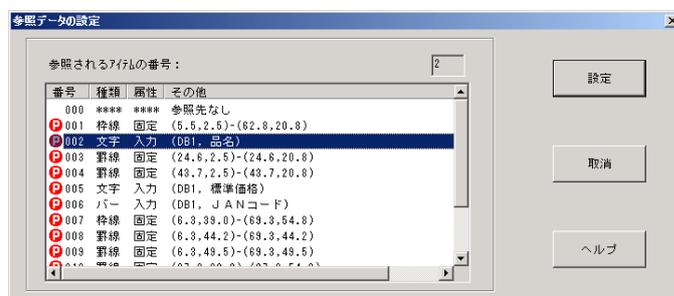
同じ要領で「No.」の下の欄には選択した「商品名」が入力されているのが分かります。

（「No.018履歴」）同じ要領で「No.019」は参照アイテムを「No.005」に選択した設定をします。「履歴データ名称」に「価格データ」を選択します。

②

P	017	集計	参照	(No.009)
	018	履歴	参照	(No.002,商品名データ,20B)
	019	履歴	参照	(No.005,価格データ,4B)
	***	***	***	*****

③



④



3

ラベルを発行すると履歴は自動的に履歴データファイル（拡張子.HDT）として保存されます。履歴データを参照するには、管理メニューの中の「履歴データ管理」を開きます。まずメニューバーの（1）ファイルから（B）のファイルを開く...をクリックし、履歴構造ファイル（拡張子HST）を開きます。次にメニューの（1）ファイルから（D）履歴データを読み込む、あるいはを押すと「HDTファイルの選択」が表示されるので、見たい履歴データを選びます。（レコードタイプが固定の場合、データファイルは1件のみです）。

ファイルを選択し、「開く」をクリックすると、図⑤に示すような「履歴レコード一覧」画面が表示され、何を、何枚、いつ発行したかが一目でわかります。（「枚数」、「時間」など表示される項目は履歴構造ファイル（拡張子.HST）の設定によります。）

⑤

番号	商品名 データ	価格データ	枚数	時間
00001	なまみそずい	160	1	99- 6-14 19:29:14
00002	ホーミングレモン	140	1	99- 6-14 19:30:18
00003	新マミオス胃腸薬	790	1	99- 6-14 19:30:40
00004	なまみそずいカップ	120	3	99- 6-15 11:40:06
00005	トマトプレッツェル	120	2	99- 6-15 11:40:21
00006	のリピーバック	230	2	99- 6-15 11:40:45
00007	ローストブリッツ	90	1	99- 6-15 11:44:44
00008	ホーミングレモン	140	4	99- 6-15 11:44:56

4

この「履歴レコード一覧」を印刷したい場合、汎用プリンタを接続して印刷することができます。また、テキスト形式に保存するには、「履歴データ管理」で履歴データをロードし、ツールボタンの（ロードカレント履歴ボタン）をクリックして履歴レコード一覧を表示させ、その中の【CSV】ボタンを押すと「名前を付けて保存」画面が表示されます。ファイル名を入力し、「保存」ボタンをクリックすると履歴データを CSV 形式のテキストファイルに保存することができます。「

⑥



データベースから他のデータベースを参照する場合（リレーションシップ）

ここでは、あるデータベースから更に他のデータベースを参照してデータを読み出す「リレーションシップ」の設定について説明をしていきます。例えば、「c:\¥AP-700¥sample」の中にある「商品 DB3.dbs」には「製造者」に関する情報は入れずに、「製造者 No」というデータ項目をつくり、製造者に関する情報（名称、住所など）は別のデータベース（製造者.dbs）に保存しています。「商品 DB3.dbs」と「製造者.dbs」は「製造者 No」によって互いに関連付けられています。ある商品の製造者名と、住所を読み出したい場合は、まず「商品 DB3.dbs」から「製造者 No」を読み出して、次に「製造者 No」を使って「製造者.dbs」から名前と住所を読み出します。それでは、「sample6.fmt」を参照しながら設定をしていきます。

①

番号	価格設定	製造者No	加工者No	販売者No	品目CODE設定
00001	なし	2	2	5	◎
00002	なし	2	1	8	◎
00003	なし	2	0	10	◎
00004	なし	2	0	11	◎

「商品 DB3.dbs」

②

番号	CODI	製造者	住所
00001	1	凸凹ハム株式会社 A	千葉県松戸市◇町1234
00002	2	凸凹ハム株式会社 B	千葉県松戸市○町5678
00003	3	凸凹ハム(株)東京工	東京都品川区○▽8-9-3
00004	4	凸凹ハム株式会社 AB	東京都▽市△△町987
00005	5	凸凹ハム株式会社 12	千葉県船橋市◇町123
00006	6	凸凹ハム株式会社 YH	東京都江戸川区○川555
00007	0		

「製造者.dbs」

1

図③は「sample6.fmt」を示しています。その中にある「製造者～販売者」セルを拡大したものが図④になり、更にここに設定されている内容を示しているのが、図⑤のリスト画面になります。リスト画面（図⑤）にある「No.036」を見ると属性が「入力」の「文字列」が設定されているのが分かります。（あらかじめ「商品 DB3.dbs」をデータベース No.1 に設定してあります。）

「No.036」は、データベース No.1（「商品 DB3.dbs」）から「製造 No」を読み出す事を示していますが、印字しない設定になっています。これは、「製造 No」データには製造者の名前、住所のデータは無く、コードのみが登録されているので、コード No を印字しない為です。

⑤

036	文字	入力	(DB1, 製造者No)
037	呼出	参照	(No.036, 製造者)
038	呼出	参照	(No.036, 住所)
039	文字	参照	(No.038, 全体参照)
040	文字	入力	(DB1, 加工者No)
041	呼出	参照	(No.040, 加工者)
042	呼出	参照	(No.040, 住所)
043	文字	参照	(No.042, 全体参照)
044	文字	入力	(KEY, 販売者No)
045	呼出	参照	(No.044, 販売者)
046	呼出	参照	(No.044, 住所)
047	文字	参照	(No.046, 全体参照)

③

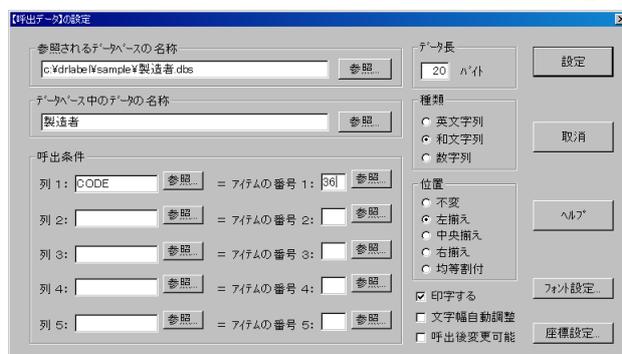
原料名	製造日付	賞味日付	内容量	製造者	加工者	販売者
あいうえおあいうえおあいうえおあいうえお	12345678	12345678	ABCDEFG	あいうえおあいうえおあいうえお	あいうえおあいうえおあいうえお	あいうえおあいうえおあいうえお

④

製造者	あいうえおあいうえおあいうえお
加工者	あいうえおあいうえおあいうえお
販売者	あいうえおあいうえおあいうえお

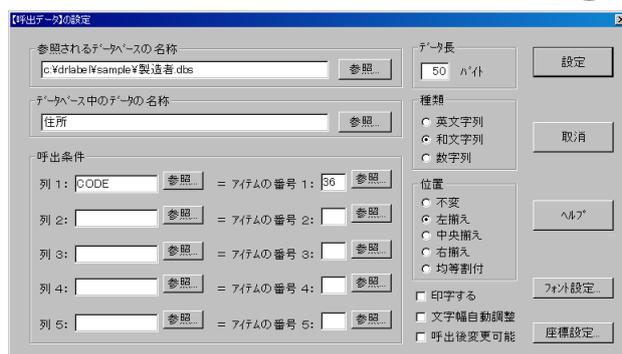
2

「No.037」は「呼出データ」を使って別のデータベース（「製造者.dbs」）にある「製造者名」データを印字する設定をしていきます。P25の「呼出データ」でも説明していますが、指定した番号のアイテム、ここでは「No.036」（「製造 No」）からデータを取り、それを呼出条件として指定したデータベース（「製造者.dbs」）から、対応するアイテムデータ（「製造者.dbs」中の「CODE」データ）を呼出し、そのアイテムデータから指定したデータ名称（「製造者」と一致するデータを抽出する設定になっています。（図⑥）



3

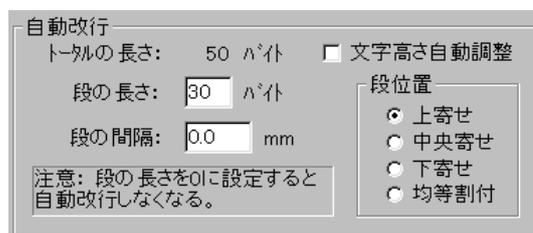
「No.038」にも同様に「呼出データ」を設定し、「製造者.dbs」にある「住所」データを印字する設定をします。図⑦は「No.038」の「呼出データの設定」画面ですが、設定内容は、「No.037」とほとんど同じになります。違うところは2つあり、「データベース中のデータの名称」部分は「住所」を選択します（参照ボタンをクリックします）。もう1つは印字しない設定になっています。これは、「製造者.dbs」を参照して頂くとお分かりになりますが、「住所」のデータ長（データの長さ）は50バイトに設定されている為、フォーマットの「住所」セルに収まりきらず、はみ出してしまいう可能性があります。その為、「No.038」は印字しないで、次の「No.039」の「文字列」で印字させるようにします。



4

「No.039」の文字列は、「No.038」を全体参照して、印字する設定をします。図⑧は「文字列の設定」の一部ですが、トータル長さ：50 バイト（データ長）の文字列を改行する設定は、「段の長さ：」のところにバイト数を入力します。

⑧



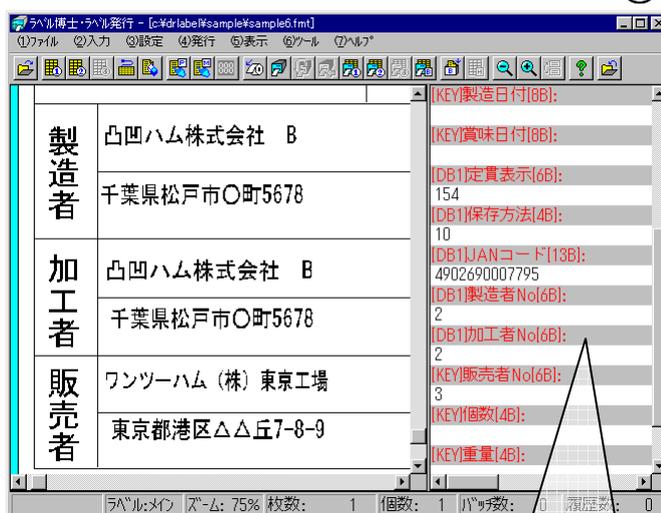
5

図⑤（P55）のリスト画面を参照しながら、残りの「加工者」セルにも、1～4 で設定した「製造者」（製造者名と住所）と同じ要領で設定します。

6

「No.036～No.047」で設定した内容を「ラベル発行」画面で確認すると、図⑨のようになります。図⑩は「製造者」、「加工者」、「販売者」セルの設定内容を拡大したのですが、それぞれ呼び出されたものがレイアウト画面（画面左）に表示されているのが分かります。

⑨



⑩



4つ以上のデータベースからデータを入力したい場合

1つのフォーマットには、3つまでデータベースからデータを読み出して印字することができますが、実際に4つ以上のデータベースからデータを入力したい場合もあります。その場合は「呼出データ」を利用します。それでは、P55の「データベースから他のデータベースを…」を参考に「呼出データ」アイテムを同様に設定していきながら説明していきます。

1

P55の図⑤のリスト画面にある「No.044～No.047」を参照しながら、まずキーボードから入力する文字列アイテムを印字しないように設定していきます。

右図①のように、「入力源」は「キーボード」を選択し、「入力データの名称」には、ラベル発行時に分かりやすくする為に、「商品DB3.dbs」にあるデータと同じ名称を入力してあります。



2

残りの「No.045～No.046」も、先程と同じ要領で、「No.044」の文字列を呼出条件として呼出データアイテムを設定します。図②は「No.045」の「呼出データ」設定画面を表し、「販売者」のデータを読み出す事を示し、図③は「No.046」で販売者の「住所」データを読み出す事を示しています。

②



③



3

「No.047」も同様に、「No.046」を全体参照する文字列を設定し、「段の長さ:」を入力します。

4

ラベル発行時は、呼出条件（ここでは販売者 No）をキーボードで入力して、データベースからデータを読み出して印字することができます。（P57の図⑨、⑩参照）

第 3 部

データベース管理

データベースを利用する事によって、ラベル発行時に毎回同じデータを入力する必要がなくなり、作業効率のアップになります。

さらに、データを管理する事もでき、特に工場や商店等の既存の管理用データベースとのやり取りや、ネットワークを通してホスト側のデータベースへの遠隔操作ができます。

それでは、データベース管理の様々な機能について紹介していきます。

データベースとは

例えば、商品ラベルを発行する為に、事前に商品に関するデータ（商品番号、品名、成分、産地、価格など）を各商品ごとにまとめてファイルに登録します。このファイルをデータベースと言い、ラベルを発行する時に、そのデータベースファイルから必要なデータを呼び出して印字する事ができます。

データ項目

番号	品名	メーカー名	JANコード	標準価格
00001	ミスターコーヒー	P o k k a	490247100320	110
00002	烏龍茶	カルピス	490134051221	120
00003	紅茶伝説アイスティ	カルピス	490134056521	120
00004	オリジナルブレンド	UCC	490120100708	688
00005	ブレンドコーヒー	UCC	490120120129	110

アイテム

データベースを作成する時に特に注意する事は、必ず関連のあるデータをデータベースに設定して下さい。関連のあるデータとは、同じ現象から生じる結果、又は同じ対象や事柄などを説明するデータの事です。まったく関連の無いデータを1つのデータベースに設定すると、データの管理やデータの呼び出しが正常にできない恐れがあります。

データベースに設定できるデータ項目の数は 250 個まで、データベースに登録できるアイテム数は 999999 個までになります。

又、アイテムが登録されている状態でも、データ項目の追加や挿入、削除などができます。

画面の構成

次は【図3-1】を基に、画面の構成に関する説明をしていきます。

【図3-1】



番号ボタン

このボタンをクリックすると、全てを選択する事ができます。データベースに「呼出コード*4」が設定されていない場合、ここに設定される行番号で呼び出されます。

番号	品名	メーカー名	JANコード	標準価格
00001	ミスターコービー	P o k k a	490247100320	110
00002	臨勝茶	カルビス	490134051221	120
00003	社密伝説アイスディ	カルビス	490134056521	120
00004	オラジナルブレンド	UCC	490120100708	688
00005	ブレンドコービー	UCC	490120120129	110
00006	なまみそすい	水谷園	490113903050	168
00007	なまみそすいカップ	水谷園	490113903030	120
00008	ピザチップス	カルビー	490133054046	130
00009	もちこしチップス	カルビー	490133018010	190
00010	うめしあめ	カンロ	490135100655	180
00011	ポッキーピター	タリコ	490100511316	135
00012	ローストブリッツ	タリコ	490100513156	90
00013	無塩野菜ジュース	カゴメ	490130609379	552
00014	トマトブリッツェル	タリコ	490100513144	128
00015	黒糖	かずさかい	490132603061	148

データ名称ボタン

各データ項目の名称が表示されます。このボタンをクリックすると、そのデータ項目（列）が選択されます。Wクリックすると、そのデータ項目列の設定画面が表示されます。

列・行 追加ボタン

新しいデータ項目の設定画面が表示され、設定ボタンをクリックすると新しいデータ項目（列・行）が追加されます。

セレクト枠

リスト画面における選択されているデータを示します。

リスト画面

データベースのデータを表示する画面です。この画面で、行や列やアイテムのデータを選択して、削除したり、バッファーにコピーしたりすることができます。

行番号ボタン

6桁の行番号が表示されます。このボタンをクリックするとその番号の行が選択されます。

列・行 セレクトバー

リスト画面で選択されているアイテム（列・行）を示します。

*4 データベースから特定のデータを読み出す時に必要なコード。

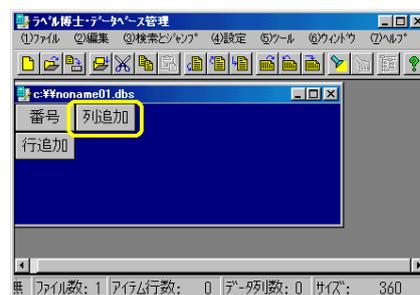
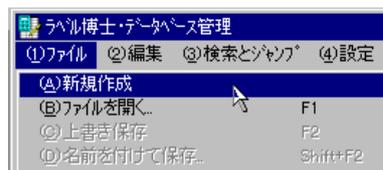
データベースの設定方法

データベースを作成する為に、まずデータベースの構造を設定する必要があります。データベース構造の設定とは、データベースに「データ項目」の数、名称、属性、バイト数を設定する事です。

—— データ項目の設定方法 ——

「データベース管理」の「(1)ファイル」から「(A)新規作成」をクリックすると、「Noname01.dbs」(新規データベース画面)が表示されます。

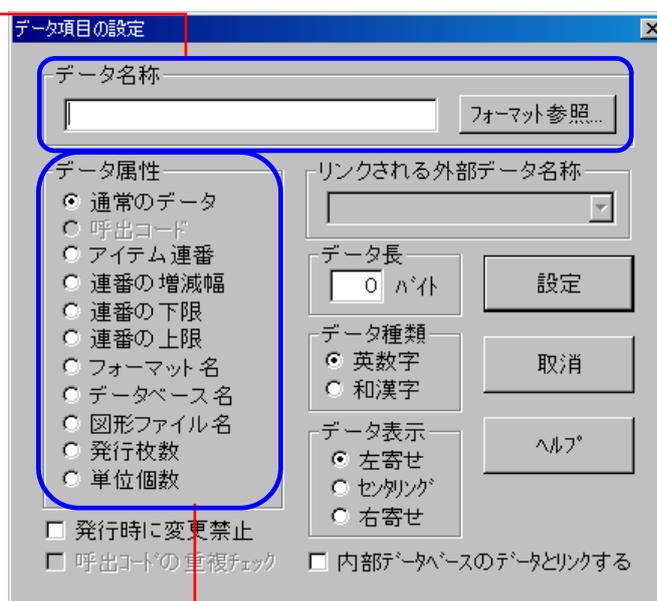
更に、「列追加」ボタンをクリックすると、「データ項目の設定」画面が表示されます。



—— 各項目の説明 ——

データ名称

ラベル発行をする時に、この名称でデータベースからデータを読み出すので、名称を安易に変更してしまうと、正常にラベル発行する事ができなくなります。これは、その変更したデータ名称に関連付けられているフォーマットも変更しなければならないからです。つまり、フォーマットで設定されている「データベース入力アイテム」と全く同じ名称でなければなりません。事前にどのフォーマットと関連するかが分かっている場合、**フォーマット参照...** ボタンをクリックしてデータ名称のリストから選択したほうが間違いないでしょう。



データ属性

「AP-700 コンソールソフト」では、データベースに通常のデータを設定できる他、特殊なデータも設定する事ができます。「図形ファイル名」と「フォーマット名」以外は、特殊データはそれぞれ1つしか設定できません。

「データ属性」の各項目については、次のページで説明していきます。

呼出コード

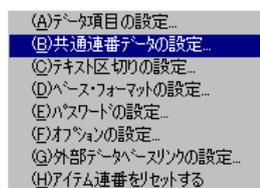
データベースからアイテムを呼び出す時、検索の対象になるデータです。

アイテム連番

それぞれのアイテムに付いている連番です。この連番を使っているラベルを発行する時は、その連番が書き換えられます。

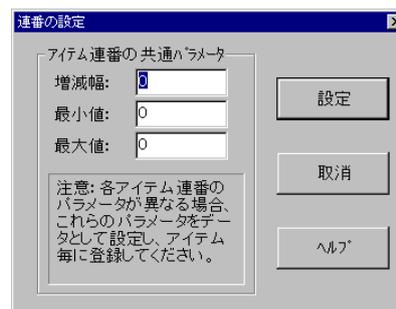
連番の増減幅

アイテム連番の増減幅になるデータです。
全てのアイテム連番の増減幅が同じ場合は、この設定は不要になります。その場合は、メニューの「(4) 設定」から「(B) 共通連番データの設定...」で設定して下さい。



連番の下限

アイテム連番の最小値になるデータです。
全てのアイテム連番の最小値が同じ場合は、この設定は不要になります。その場合は、メニューの「(4) 設定」から「(B) 共通連番データの設定...」で設定して下さい。



連番の上限

アイテム連番の最大値になるデータです。
全てのアイテム連番の最大値が同じ場合は、この設定は不要になります。その場合は、メニューの「(4) 設定」から「(B) 共通連番データの設定...」で設定して下さい。

フォーマット名

アイテムとつながるフォーマットファイル名を登録するデータです。(右図) ラベル発行する時に、発行モードを「データベース優先」(先にデータベースからデータを呼び出して、関連するフォーマットを後から呼び出すモード)を選択した場合、必要なデータになります。ファイル名には、ディレクトリ名などのパスが含まれるので、十分な長さが必要になります。
「AP-700コンソールソフト」では、最大3つのラベラーを同時に制御することができるので、書くラベラーに対応するフォーマットも3つまで設定できます。3つの「フォーマット名」項目の順番がラベラーの順番と一致します。

番号	枚数	フォーマット名	列挙...
00001	1	f:mydocu\1ラベル\1出庫ラベル.	
00002	2	f:drlabel\sample\sample2.fmt	
00003	3	f:drlabel\sample\gp460s.fmt	
00004		f:drlabel\sample\gp400z.fmt	
00005		f:drlabel\sample\sample2.fmt	
00006		f:drlabel\sample\3.fmt	
00007		f:mydocu\1ラベル\1seihin.fm	

データベース名

アイテムとつながるデータベースファイル名を登録するデータです。
 今のデータベースから更に他のデータベースにリンクする場合に必要なデータです。
 又、ファイル名には、ディレクトリ名などのパスが含まれるので、十分な長さが必要になります。

例えば

右図①の「部門」データ項目の属性は「データベース」に設定されています。ツールバーのボタンをクリックし、「ファイルを開く」ウィンドウからリンクさせるデータベースを指定します。

①



番号	部門コード	名称	部門	列追加
00001	01	肉	d:\drlabel\sample\肉.dbf	
00002	02	野菜	d:\drlabel\sample\野菜.dbf	
行追加				

ラベル発行時に、図①の行番号「00001」を選択すると、図②の「肉.dbf」データベースにリンクされ、「豚肉」や「鶏肉」等のアイテムをフォーマットに印字させ、発行する事ができます。

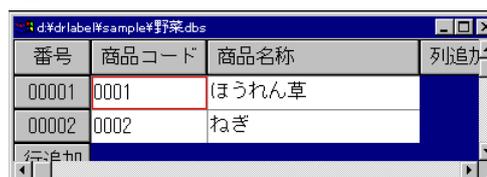
②



番号	商品コード	商品名称	列追加
00001	0001	豚肉	
00002	0002	鶏肉	
行追加			

又、行番号「00002」を選択すると、図③の「野菜.dbf」にリンクされ、「ほうれん草」や「ねぎ」等アイテムをラベルに印字、発行させる事ができます。

③



番号	商品コード	商品名称	列追加
00001	0001	ほうれん草	
00002	0002	ねぎ	
行追加			

図形ファイル名

アイテムとつながる図形ファイル名を登録するデータです。
 又、ファイル名には、ディレクトリ名などのパスが含まれるので、十分な長さが必要になります。

発行枚数

ラベルの発行枚数を登録するデータです。単位個数が1の場合は実際の発行枚数と一致しますが、値が2以上の時はアイテムの総個数を設定する必要があります。

データ長

データの長さをバイト単位で設定します。フォーマット参照でデータ名称を設定した場合、データ長も自動的に設定されます。

データ種類

データ種類を設定します。半角文字は必ず英数字に、全角文字は和漢字に設定します。データを登録する時、データ種類によって全角入力モードと半角入力モードが自動的に切り換えられます。

データ表示

データの表示方法を設定します。「左寄せ」は左側に、「センタリング」は中央に、「右寄せ」は右側にデータを寄せて表示します。とても長く画面に表示しきれないデータに対しては「左寄せ」、数字のデータに対しては「右寄せ」に設定したほうがいいでしょう。

発行時に変更禁止

ここにチェックをすると、当該データがラベル発行の時に変更できなくなります。

拡張設定（内部データベースのデータとリンクする）

ここにチェックをすると、設定したデータ項目が他の内部データベースのデータ項目と呼出コードによってリンクすることになります。呼出コードが設定されていない場合は番号によってリンクされます。

リンクされる外部データ名称

データ項目（列）を外部データベースのどのフィールド（列）と関連づけるかを設定します。メニュー「(4)設定」の「(G)外部データベースリンクの設定」にリンクする外部データベースを設定すると、このパラメータが有効になります。関連づけを設定すると、外部データベースからデータをロードする時に、リンク先フィールド（列）のデータが自動的に設定したデータ項目（列）に入ってきます。

リスト画面の操作方法

リスト画面は、データを表示するだけでなく、入力や変更、削除、コピーする事ができます。

画面のスクロール

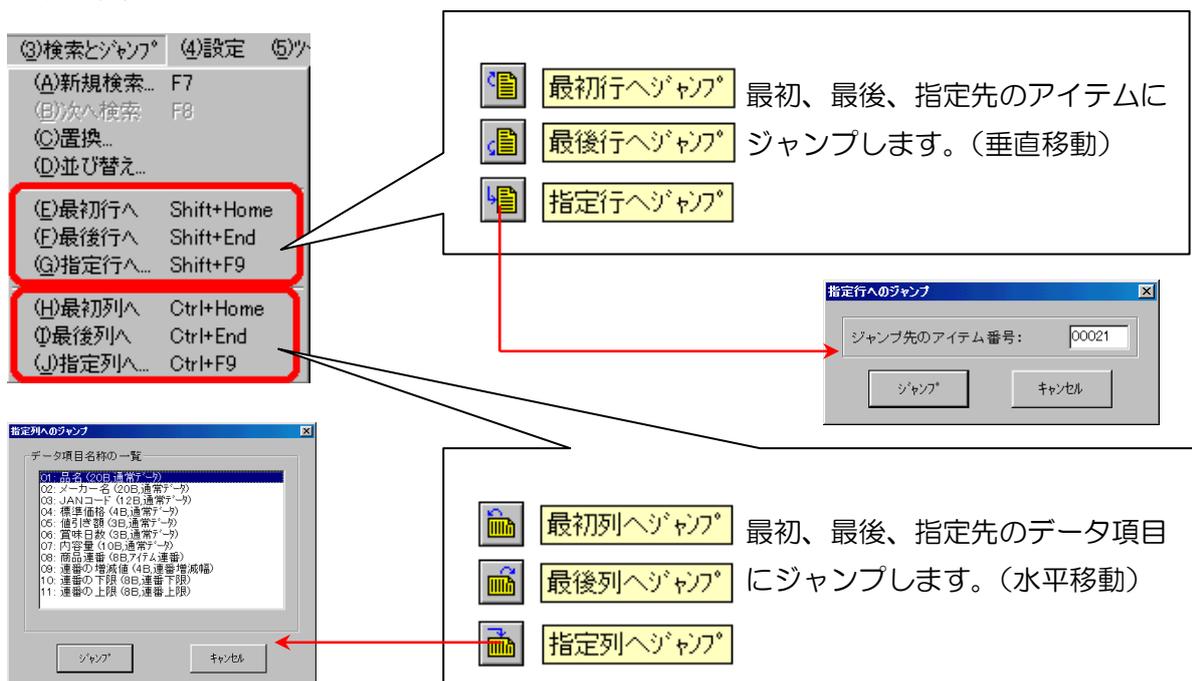
データが多くてリスト画面に表示しきれない場合、画面をスクロールしますが、以下のような方法があります。

水平・垂直スクロールバー移動による方法

水平、垂直スクロールバーのボタンをクリック、又はバーを直接ドラッグします。この方法では、セレクト枠の位置は変わりません。

ジャンプによる方法

メニューの「(3)検索とジャンプ」から選択する方法と、ツールバーボタンをクリックする方法があります。



キーボードによる方法 (接続している場合)

〈PageUp〉〈PageDown〉ボタンを押す事で、10 アイテムずつ画面を垂直にスクロールする事ができます。又〈Shift〉キーを押しながら、〈PageUp〉や〈PageDown〉ボタンを押すとデータ項目が2列ずつ水平にスライドします。この方法では、セレクト枠の位置が変わります。上下左右の矢印キーからでも、セレクト枠を移動する事によって画面を水平、垂直にスクロールする事ができます。

グループの選択

アイテム（行選択）

選択したいアイテム行の番号ボタンをクリックすると、そのアイテム行が選択されます。（行セレクトバー）上下の矢印キーを押すと、行セレクトバーが上下に移動し、〈PageUp〉〈PageDown〉ボタンを押すと1ページずつ移動します。（キーボード接続の場合）

データ項目（列選択）

選択したいデータ項目の名称ボタンをクリックすると列が選択されます。（列セレクトバー）左右の矢印キーを押すと、列セレクトバーが左右に移動し、〈Shift〉キーを押しながら〈PageUp〉〈PageDown〉ボタンを押すと、列セレクトバーが2列ずつ移動します。（キーボード接続の場合）

グループ選択する場合は、ドラッグ操作で行いま

すが、キーボードを接続している場合には、グループ最初の行番号ボタン（列の場合は、最初のデータ項目名称ボタン）をクリックし、〈Shift〉キーを押しながら最後の行番号ボタン（列の場合は、最後のデータ名称ボタン）をクリックすることで選択できます。**全てのアイテムを選択する場合は**、リスト画面の左上角のボタン **番号** をクリックするか、メニューの「(2) 編集」→「(G) すべて選択」をクリックします。アイテムの選択を解除するには、行、列ボタン以外のエリアをクリックします。

番号	品名	メーカー名
00001	ミスターコーヒー	Pokka
00002	烏龍茶	カルビス
00003	紅茶伝説アイスティ	カルビス
00004	オリジナルブレンド	UCC
00005	ブレンドコーヒー	UCC
00006	なまみそずい	永谷園
00007	なまみそずいカップ	永谷園
00008	ビザチップス	カルビー

番号	標準価格	値引き額	賞味日数	内容量	商
00001	110	10	180	190g	
00002	120	20	180	350ml	
00003	120	20	180	350ml	
00004	688	8	180	1000g	
00005	110	8	180	180g	
00006	168	8	365	6袋	
00007	128	8	365	30グラム	
00008	130		60	1袋	

アイテムとデータ項目の追加と変更

アイテムの追加

リスト画面にある **行追加** ボタンを押すか、又はメニューの「(2) 編集」→「(A) 行追加」を選択する事で新しいアイテムが追加されます。

データ項目の追加と変更

リスト画面にある **列追加** ボタンを押すか、又はメニューの「(2) 編集」→「(B) 列追加」を選択する事で新しいデータ項目が追加されます。設定済みのデータ項目を変更したい場合は、変更したいデータ項目名称ボタンをクリックします。「データ項目の設定」画面が表示されるので、変更したい部分を修正したら、設定ボタンをクリックします。新しい設定が記憶されます。又、メニューの「(4) 設定」→「(A) データ項目の設定...」からでも同じ作業ができます。



データの入力と変更

通常、セレクト枠（選択されているセル）は、赤の枠で囲まれています。データの入力や変更をする時には、枠の色は黒になります。データの入力、変更方法には、3つあります。

1. 入力又は、変更を加えたいセルを、Wクリックします。
2. セレクト枠を入力又は、変更を加えたいセルに移動し、〈Shift〉キーを押しながら〈Enter〉キーを押します。
3. セレクト枠を入力又は、変更を加えたいセルに移動し、そのままデータを入力します。

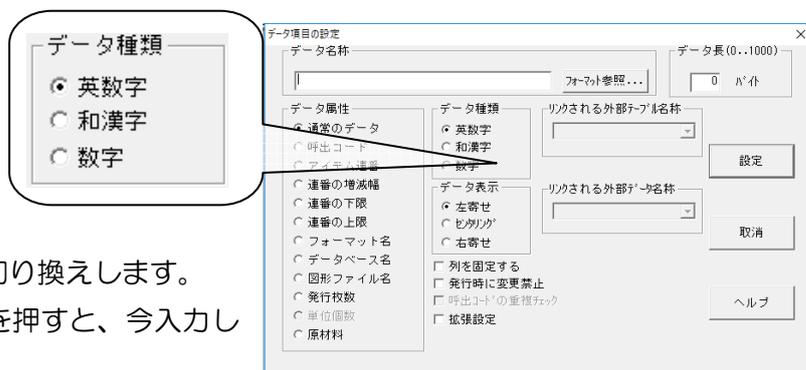
最初の1文字入力によって、入力ウィンドウが開かれます。

全角、半角の入力モードは、はじめに設定した

「データ種類」の「英数字」「和漢字」「数字」によって自動切り換えします。入力をキャンセルしたい場合、〈消〉キーを押すと、今入力したデータはキャンセルされます。

〈Shift〉キーを押しながら、上下左右の矢印キーを押すと、入力セルを移動することもできます。

番号	品名
00001	ミスターコーヒー
00002	烏龍茶
00003	紅茶伝説アイスティ
00004	オリジナルブレンド
00005	ブレンドコーヒー



ファイル名参照入力

データの属性が「フォーマット名」、「データベース名」、「図形ファイル名」の場合、セルにファイル名を直接入力してもいいですが、正確にファイル名が分かっていない場合にとても便利です。

右図のように、メニューの「(2) 編集」→「(H) ファイル名参照入力」をクリックするか、ツールバーの  ボタンをクリックすると、「ファイルを開く」ダイアログボックスが開かれるので、ファイルリストからファイルを選択し、開くボタンをクリックすると、ファイル名が自動的に登録されます。

番号	枚数	フォーマット名	列追加
00001	1	f:\mydocu\1\ラベル\1\出庫が*.fm	
00002	2	f:\vdrlabel\sample\sample2.fmt	
00003	3	f:\vdrlabel\sample\gp460s.fmt	
00004		f:\vdrlabel\sample\gp400z.fmt	
00005		f:\vdrlabel\sample\sample2.fmt	
00006		f:\vdrlabel\sample\sample3.fmt	
00007		f:\mydocu\1\ラベル\1\seihin.fm	



データ項目の移動

データ項目（列）を移動する場合は、

1. 移動したいデータ項目ボタンをクリックし選択します。
2. ツールバーにある「切り取り」ボタンか、メニューの「(D) 切り取り」を選択
3. 挿入したい列の、（選択した列の左側に挿入されます）データ項目ボタンをクリックし、ツールバーにある「貼り付け」ボタンか、メニューの「(E) 貼り付け」を選択。

テキストファイルに書出す・読む

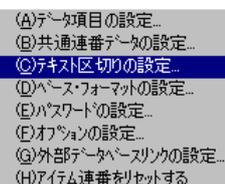
「AP-700 コンソールソフト」では、データベースの構造に関する情報とデータベースのデータが独自の形式でファイルに保存されるため、Access や Excel、Lotus1-2-3 などの市販のデータベース管理ソフトと互換性を持っていません。

市販のデータベースソフトとデータをやり取りする方法は、テキスト形式のファイルを通してやり取りする方法と、データベース標準インタフェース ODBC を通してやり取りする方法と二つあります。ここでは前者の方法について説明し、後者の方法の説明は 80 頁をご参照ください。

テキスト形式のファイルを通してやり取りする方法とは、市販のデータベースソフトなどで作成したファイルをテキストファイル形式 (.txt/.csv) で保存し、「AP-700 コンソールソフト」が「テキストファイルを読む」でロードします。又、「AP-700 コンソールソフト」で作成したデータベースファイルを「テキストファイルに書出す」で保存し、市販のソフトウェアがテキストファイルを読み込んで自分の形式に変換する方法です。

テキスト区切りの設定

テキストファイルに書出す・読む場合、データ項目の間にどんな記号を入れて区切るかなど、市販のソフトによって異なるので、「AP-700 コンソールソフト」では区切り記号などのパラメータを自由に設定できるようになっています。メニューの「(4)設定」→「(C)テキスト区切りの設定...」で設定する事ができます。

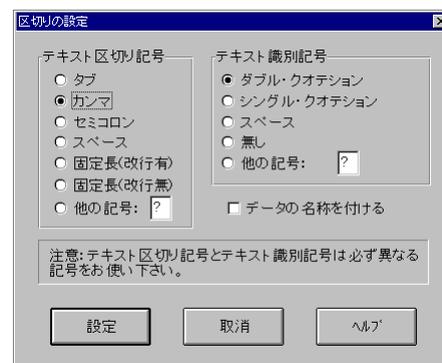


テキスト区切り記号

テキストファイルに書出す・読む時、データ項目とデータ項目の間にどんな記号を入れて区切るかを設定します。常用区切り記号以外の記号を使いたい場合、「他の記号」のところに入力します。区切り記号を使わずに固定長のテキストに書出し又は読む場合、「固定長」を選択します。ただし、この場合、書出し側又は読む側のソフトウェアでは、全く同じデータ長に設定しなければなりません。

テキスト識別記号

データの中に区切り記号と同じ記号が含まれている可能性がある場合、このパラメータを設定しなければなりません。これは、逆変換する時に、間違っ



しまう恐れがあるからです。例えば、「"ワイン","1,900"」この様にカンマ記号(,)を区切り記号とし、価格データにカンマが入っていれば(1,900)、「テキスト識別記号」(ここではダブルクォテーション")を付ける必要があります。常用識別記号以外の記号を使いたい場合、「他の記号」のところに入力し、使わない場合は「無し」を選択します。

注意：テキスト識別記号とテキスト区切り記号を同じ記号に設定にすると、読み込みができなくなるので、同じ記号に設定にしないように気をつけて下さい。

データの名称を付ける

テキストファイルに書出し・読む時、1行目にデータ項目の名称とバイト数を入れるかどうかを設定します。これをチェックすると、データ項目に関する一部の情報も他のソフトウェアに伝える事ができます。

テキストファイルに書出す

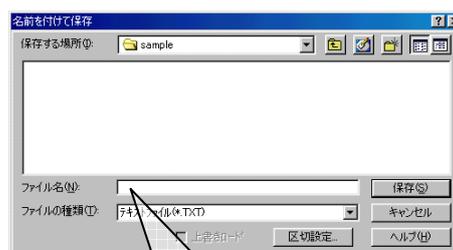
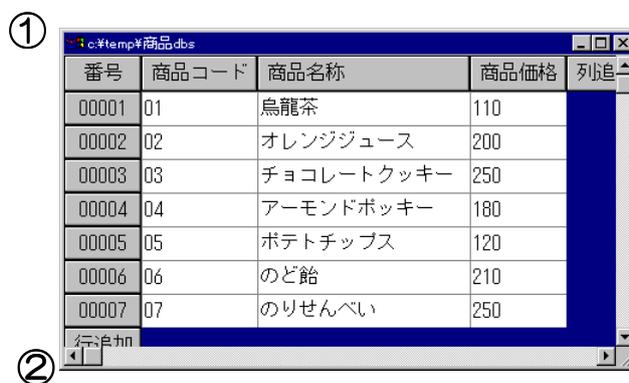
では、右図①にある「商品1.dbs」をテキストファイルに書出しをします。

メニューの「(1)ファイル」→「(E)テキストファイルに書出し...」をクリックします。

右下図②の「名前を付けて保存」画面が表示されます。ファイル名を「商品.txt」と入力し、保存先のディレクトリを指定し **保存(S)** ボタンをクリックします。

※「区切設定...」ボタンをクリックすると「区切りの設定」(前ページ)が表示され設定の確認、変更ができます。

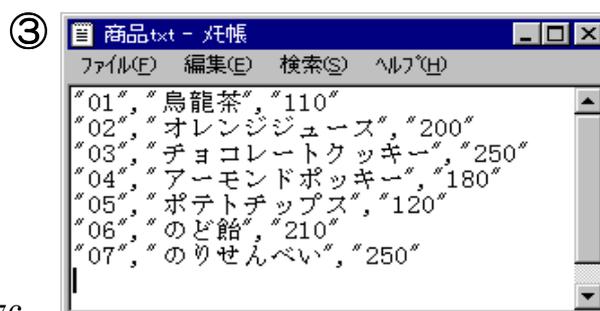
メモ帳から「商品.txt」ファイルを開いてみると、右下図③のようにデータ項目とデータ項目の間に「,」が入っていて区切られている事が分かります。



テキストファイルを読む

メニューの「(1)ファイル」→「(A)新規作成」からファイルを開くか、又は別の「.dbs」ファイルを開き、ウィンドウに表示させます。

メニューの「(1)ファイル」→「(E)テキストファ



第3部 データベース管理/テキストファイルに書出す・読込む

イルを読込む...」をクリックします。「ファイルを開く」画面が表示されるので、ファイル名を入力、又は一覧から選択します。

④

「区切設定...」ボタンをクリックして、「商品.txt」と同じ区切り記号の設定になっているか、確認をし、



ボタンをクリックします。

A screenshot of a software window titled "c:\temp\商品名" with a "閉じる" button in the top right corner. The window contains a table with 5 columns: "番号", "商品コード", "商品名称", "商品価格", and "列追加". The table lists 14 items. The 13th row is highlighted with a red border.

番号	商品コード	商品名称	商品価格	列追加
00001	01	烏龍茶	110	
00002	02	オレンジジュース	200	
00003	03	チョコレートクッキー	250	
00004	04	アーモンドボッキー	180	
00005	05	ポテトチップス	120	
00006	06	のど飴	210	
00007	07	のりせんべい	250	
00008	01	烏龍茶	110	
00009	02	オレンジジュース	200	
00010	03	チョコレートクッキー	250	
00011	04	アーモンドボッキー	180	
00012	05	ポテトチップス	120	
00013	06	のど飴	210	
00014	07	のりせんべい	250	

「データベース優先発行」用データベースの設定方法

データベース優先発行とは、先にデータベースからデータを読み出し、関連するフォーマットを後から呼び出して発行することです。データベース優先発行用データベースは、通常のデータベースとは少し違います。データ属性が「フォーマットファイル名」の列項目を設定し、フォーマットのパスと名称を入力しなければなりません。発行メニューでファイルを開くときは  のボタンを選択します。

※「フォーマット優先発行（先にフォーマットを読み出してから、データベースのデータを後から呼び出すモード）」の場合は、この項目を設定する必要はありません。発行メニューでファイルを開くときは  を選択します。

データベース優先発行用データベースの作成

データベース優先発行用のデータベースを作るには、データ属性がフォーマット名の列項目を設定し、フォーマットのパス名を入力しなければなりません。「AP-700 コンソールソフト」では、最大3つのフォーマットを読み出してラベルの発行が行えるので、3つのフォーマット名の列項目を設定することができます。注意しなければいけないのは、同時に呼び出されるフォーマット（行に並ぶフォーマット）に設定されるデータベースが共通のものであることと、発行の際、このデータベースが自動的にそれぞれのフォーマットのデータベース No.1【DB1】にセットされることです。それぞれのフォーマットのデータベース設定で設定されているデータベース No.1が無視されます。

※ データベースの1アイテムに設定されている3つのフォーマットが利用しているデータベースの数が異なっても構いません。例えば、フォーマット1がDB2のみを使っているが、フォーマット2がDB1,DB2とDB3を使っている場合でも構いません。但し、この場合、フォーマット1のDB2とフォーマット2のDB2が同じデータベースでなければなりません。

※ 一方、異なるアイテムに設定されているフォーマットが利用しているデータベースが異なっても構いません。例えば、アイテム1のフォーマット1が使っているDB2が「添加物.DBS」で、アイテム2のフォーマット1が使っているDB2が「産地.DBS」の場合でも構いません。

※ 明らかに、全てのアイテムに設定されている全てのフォーマットが利用しているデータベース No.1 は必ずアイテムが登録されているデータベース優先発行用のデータベースでなければなりません。但し、フォーマットがDB1を利用しなくても構いません。

第3部 データベース管理 / 「データベース優先発行」用データベースの設定方法

No.	code	Format1	Format2	Format3
00001	001	C:\AP-700\Samples\F1.FMT	C:\AP-700\Samples\F2.FMT	
00002	002	C:\AP-700\Samples\F2.FMT	C:\AP-700\Samples\F3.FMT	C:\AP-700\Samples\F1.FMT
00003	003	C:\AP-700\Samples\F3.FMT		C:\AP-700\Samples\F2.FMT
Add R				

※ よく使用するデータベース優先発行用のデータベースファイルは予め「管理メニュー」の【システム設定】で「自動ロードするファイルのパスと名称」に設定しておけば、ラベル発行画面を起動すると自動的にロードされます。

外部データベースのアクセス方法

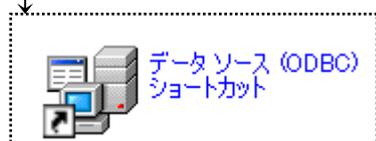
「AP-700 コンソールソフト」では、「AP-700 コンソールソフト」のデータベース機能を利用して作成したデータベース（以降、「内部データベース」と呼ぶ）を参照するだけでなく、市販の汎用データベース（以降、「外部データベース」と呼ぶ）を参照する事ができます。外部データベースを利用する際には、そのデータベースの ODBC ドライバをインストールし、ODBC のデータソース名を登録しなければなりません。登録方法は次のようになります。

ODBC のデータソース名を登録する方法

ここで、外部データベース「ACCESS」を利用する場合の ODBC 登録方法をサンプルとして示します。その他のデータベースの場合、ODBC 登録方法についてはそのデータベースの ODBC ドライバに関するマニュアルをご参照ください。

1

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「管理ツール」を開き、その中の「ODBC ショートカット」を開きます。「ODBC データソースアドミニストレータ」ダイアログボックスが表示されます。（図②）



※OS によっては、「コントロールパネル」→「ODBC (32ビット)」を選択してください。

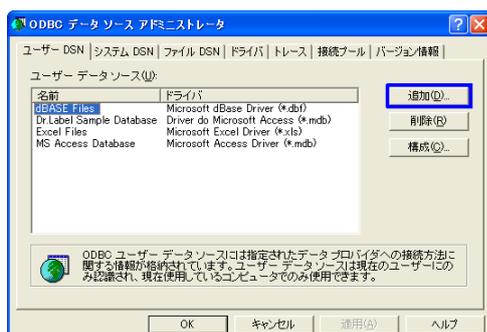
①



2

「ユーザー DSN」タブにある「追加」ボタンをクリックすると（図②）、「データソースの新規作成」画面が表示されます（図③）。このダイアログボックスにはドライバが一覧表示されます。ユーザーデータソース用に追加するドライバを選択し[完了]をクリックします（ここでは、Microsoft Access Driver (*.mdb) を選択しています）。

②



③



3

Microsoft Access Driver のデータソースのセットアップダイアログボックス (図④) が表示されるので、「選択」ボタンをクリックします。

④



4

次に、「データベースの選択」のダイアログボックスが表示されるので、フォルダ→データベースファイルを選択し、「OK」ボタンをクリックします。「ODBC Microsoft Access セットアップ」画面に戻ります。

⑤



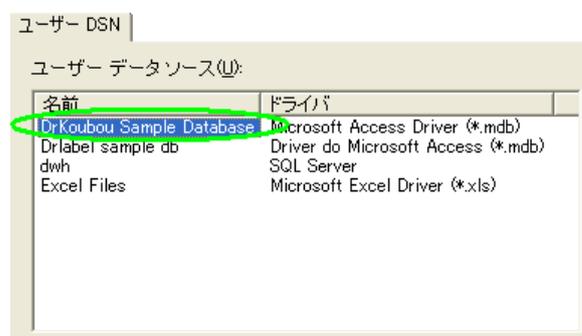
5

「データベース:」の横には指定したファイル名が表示されているのが確認できます。(図⑥) 「データソース名」のところに、名前を入力して、「OK」ボタンをクリックします。始めの「ODBC データソースアドミニストレータ」画面に戻り、「ユーザーデータソース」の中に追加されます。確認できたら、「OK」ボタンをクリックし、ダイアログボックスを閉じます。これで ODBC のデータソース名の登録は完了です。

⑥



⑦



「データベース管理」で外部データベースを読み込む場合

6

「AP-700 コンソールソフト」の「データベース管理」で外部データベースから読み込む方法は、「(1)ファイル」→「(2)外部データベースを新規読み込む...」を選択します。データソースを選択して、「次へ」ボタンをクリックすると、ユーザーID とパスワードの入力が面が表示されるので、(図9)、その二つが設定してある場合、入力して「設定」ボタンをクリックします。ユーザーID とパスワードが設定されていない場合はそのまま「設定」ボタンをクリックします。

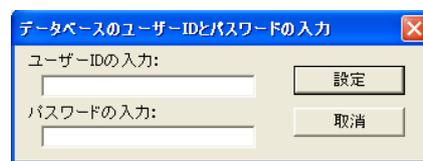
8



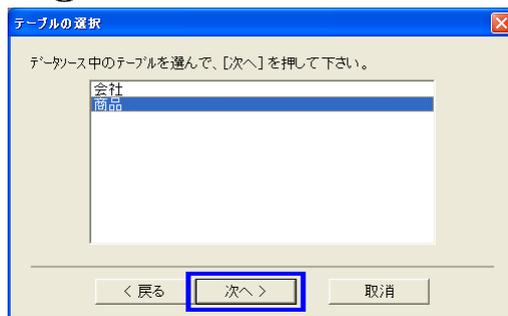
7

次に「テーブルの選択」ダイアログボックスが表示されます(図10)。テーブルを選択して「次へ」ボタンをクリックすると、「データ項目の選択」ダイアログボックスが表示されます。(図11)

9



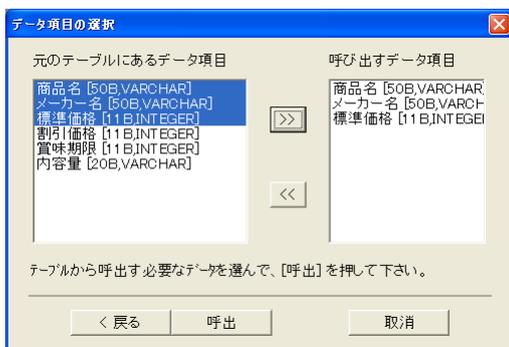
10



8

図11画面の左側には、そのテーブルにあるデータ項目が一覧表示されているので、呼び出したいデータ項目を選択し追加ボタン  をクリックします。図11画面右側の「呼び出すデータ項目」欄に追加されます。又、「呼び出すデータ項目」欄に追加したデータ項目を削除したい場合、データ項目を選択し  ボタンをクリックすると削除されます。「呼出」ボタンをクリックし、図12のように外部データベースが読み込まれます。

11



12

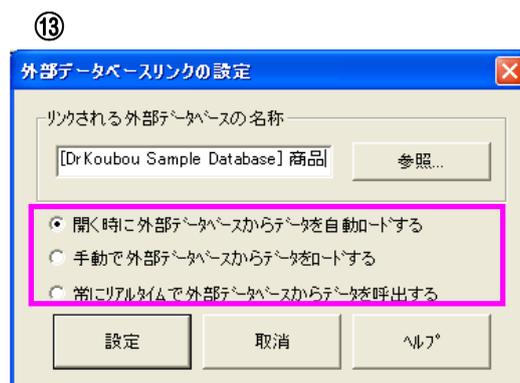
番号	商品名	メーカー名
00001	ミスターコーヒー	P o k k a
00002	鳥龍茶	カルピス
00003	紅茶伝説アイスティ	カルピス
00004	オリジナルブレンド	UCC
00005	ブレンドコーヒー	UCC
00006	グレープ100%	ウェルチ
00007	アップル100%	ウェルチ
00008	ペブシコーラ	ペブシ
00009	ストレートピーチ	全農
00010	静岡産 煎茶	カルピス
00011	ウイスキー	サントリー
00012	ワインカフェ	メルシャン
00013	桜 張鶴	日本盛

外部データベースリンクの設定

市販のデータベースソフトのデータを直接呼び出したい場合は、「外部データベースリンクの設定」をします。ラベル発行時に「AP-700 コンソールソフト」が自動的に、指定したデータソースの指定したテーブルからデータを読み出してラベルの発行ができます。

9

まず、外部データベースとリンクさせる空きの内部データベースを新規作成します。メニューの「設定」から(G)外部データベースリンクの設定を選択します。ダイアログボックス(図⑬)が表示され、「参照」をクリックしてデータソースの選択をします。(P82 図⑧、⑨と同じ要領です) テーブルの選択をして、「完了」をクリックするとリンクされる外部データベースの名称が入力されます。次にデータのロード方法を選択し、「設定」をクリックして外部データベースの設定が完了します。



- ・ **手動で外部データベースからデータをロードする**

データベースの自動ロードは行いません。外部データベースをロードしたい場合、その都度、作業員自身が手動でメニューから「外部データベースを再ロードする」を選択し手動で更新します。

- ・ **開く時に外部データベースからデータを自動ロードする**

このデータベースが開かれると、指定されたリンクされる外部データベースから全データを自動ロードします。この場合、ロードする前の外部データベースに何か変更があれば必ず内部データベースに反映され全データベースをロードするという点がメリットですが、ラベル発行においては同じデータベースが何回も開かれる場合が多く、この時データベースを初めて一回ロードした後はその後ロードを行いません。またそれ以降外部データベースの変更があってもリンクする内部データベースに影響されないため、ラベル発行時データが最新のものとは限らなくなります。また、内部データベースを開くには少し時間が掛かります。

- ・ **常にリアルタイムで外部データベースからデータを呼出する**

このパラメータをチェックすると、ラベル発行する時に外部データベースのある特定のデータを指定した時に初めて、そのデータをロードします。この場合、呼び出しするデータは外部データベース内にあるデータの一行だけになります。常に最新のデータをロードすることができます。尚、外部データベースによって接続とデータの取込みに時間がかかる場合もあ

るので、マウスが砂時計になっている時はしばらくお待ち下さい。

外部データベースとリンクさせた内部データベースの「データ項目の設定」画面を開くと、右図のように、設定したリンクされる外部テーブル名称が表示されます。リンクされる外部データ名称はコンボボックスから選択して設定します。この時、内部データベースのデータ名称とリンクされる外部データの名称は必ずしも同じでなくても構いません。



第 4 部

バッチデータ管理

バッチデータ管理では、大量のラベルを発行する時など、事前に発行に必要なデータをまとめ、登録する為のファイルを管理します。ここでは、バッチデータ管理についての様々な機能について紹介していきます。

バッチデータ管理について

バッチデータファイルは、予約ファイル、スケジュールファイルとも呼ばれ、事前に発行に必要なデータをまとめて登録するためのファイルです。例えば品番 1 の商品を 10 枚、品番 2 の商品を 5 枚、品番 10 の商品を 1 枚発行したい場合、このファイルからデータを自動的にロードして発行します。つまり、バッチデータファイルを上手に利用すれば、発行の効率を一層向上でき、間違いも少なくなります。次のような場合、バッチデータファイルをもっとも利用するのに適しています。

- 📖 発行するアイテム数が非常に多くて、1 つずつ呼び出して発行するのが大変な場合。
- 📖 アイテム毎の発行枚数が多い、現在の発行が終らなければ、次の発行指示を出せない等プリンタの側で待機していなければならない場合
- 📖 発行データの作成と実際発行する時間や場所が離れている場合。
例えば、今日作成したデータを明日発行する場合、本部で作成したデータを支店で発行する場合など。
- 📖 発行データを作成する人とラベル発行する人が同じ人ではない場合。
- 📖 同じパターンの発行データを繰り返し発行する場合。

バッチデータファイルは一種のデータベースです。データベースファイルのデータ構造は自由に設定できますが、バッチデータファイルのデータ構造の場合は、フォーマットによって決められるので、自由に設定する事ができません。ご注意ください。

バッチデータファイルを新規作成する時、フォーマット優先発行モードでは、対応するフォーマット名称を設定すれば、そのフォーマットによってバッチデータファイルの構造が自動に作られます。データベース優先発行モードでは、対応するデータベース名称を設定すれば、そのデータベースに設定してあるベースフォーマットによってバッチデータファイルの構造が自動に作られます。

一方、プログラム「ラベル発行」において、フォーマット優先発行モードでフォーマットを呼び出す時、データベース優先発行モードでデータベースを呼び出す時にも、バッチデータファイルが自動に作られます。ただし、ファイルの拡張子は「BT\$」になります。プログラム「ラベル発行」で登録したバッチデータはこのファイルに記憶されます。プログラム「バッチデータ管理」ではこのファイルを読み込む事ができます。

画面の構成

【図5-1】

システムボタン
番号ボタン
メニューバー
タイトルバー
データ名称ボタン
ウィンドウ枠
ツールバー

番号	品名	JANコード	標準価格	枚数	状態
00001	ミスターコーヒー	490247100320	110	1	発
00002	烏龍茶	490134051221	210	1	発
00003	紅茶伝説アイスティ	490134056521	120	1	発
00004	オリジナルブレンド	490120100708	688	1	発
00005	ブレンドコーヒー	490120120129	110	1	発
00006	グレープ100%	490406000710	498	1	発
00007	アップル100%	490406000711	458	1	発
00008	ペプシコーラ	490100420161	110	1	発
00009	ストレートビーチ	490801120135	198	1	発
00010	静岡産 煎茶	490134037461	108	1	発
00011	ウイスキー	490140025845	2100	1	発
00012	ワインカフェ	490100012583	1800	1	発
00013	張鶴	49005821315	2500	1	発
00014	スパードライ	490131302627	250	1	発

行追加

1行*5列 バッファ: 行 ファイル数: 1 アイテム行数: 20 データ列数: 5

セレクト枠
行追加ボタン
行番号ボタン
行セレクトバー
リスト画面
ステータスバー

操作方法・その他設定

データ項目に関する情報

リスト画面にある、データ項目に対応するデータ名称ボタンをWクリックすると、そのデータ項目に関する情報が表示され、データの属性、バイト数、種類（英文（数値含）、和文）を確認することができます。

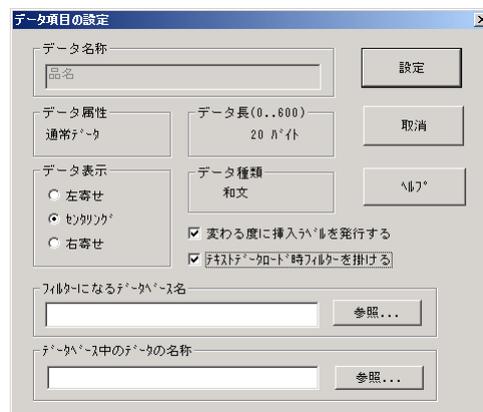
また、外部からテキスト形式のバッチデータをロードする時、特に複雑なバッチ発行をする場合は、次の項目の設定が必要となります。

・ 変わる度に挿入ラベルを発行する

このパラメータにチェックをつけると、指定のデータ項目の内容が変わったら挿入ラベルを発行する設定ができます（挿入ラベルが設定してある場合）。これによって、挿入ラベルの発行タイミングを自由に設定できます。二つ以上のデータ項目がチェック対象に設定された場合、どれか一つが変わったら挿入ラベルを発行します。

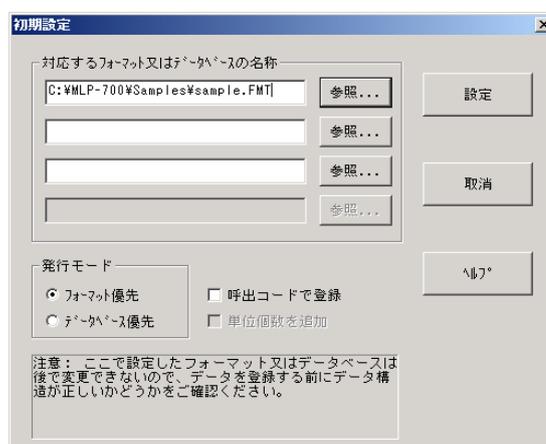
・ テキストデータダウンロード時フィルターを掛ける

このパラメータにチェックをつけると、フィルターになるデータベースと比較対象のデータ項目をデータ項目に設定します。外部からテキストデータを読み込む時、読み込んだ当該のデータが指定フィルターのデータベースにあるかどうかを調べて、あればロードし、なければロードしないという処理をします。この機能によって、外部バッチデータに必要なデータのみをロードすることが可能になります。フィルターの設定に間違いがあれば、フィルターが無効になります。



初期設定

バッチデータファイルは必ずフォーマット、又はデータベースに対応しています。フォーマット優先発行モードでは、バッチデータファイルはフォーマットと対応し、フォーマットの設定内容によってバッチデータの構造が自動的に決められます。データベース優先発行モードでは、バッチデータファイルはデータベースと対応し、データベースのベース・フォーマットの設定内容によってバッチデータの構造が自動的に決められます。対応するフォーマットやデータベースの設定は、「新規作成」作業の最初に行います。



ここで設定したパラメータがバッチファイルのデータ構造を決めるパラメータなので、一度設定すると後で変更する事ができません。変更したい場合は、もう一度「新規作成」を選択し、改めて作り直して下さい。

対応するフォーマット又はデータベースの名称

対応するフォーマット又はデータベースの名称を設定します。この設定をする前に、まず発行モードを選択します。フォーマット優先発行モードを選んだ場合はフォーマット名称を、データベース優先発行モードを選んだ場合はデータベース名称を設定します。

発行モード

フォーマット優先か、データベース優先か発行モードを選択します。

- ・フォーマット優先発行モード→フォーマットを先に呼び出してからデータベースにあるデータを呼び出すモード
- ・データベース優先発行モード→データベースからデータを呼び出す時に関連するフォーマットを呼び出すモード

呼出コードで登録

このパラメータにチェックすると、バッチファイルにアイテムの呼出コードを登録する事になり、チェックしないと、バッチファイルに呼び出したアイテムのデータを登録する事になります。チェックする場合は、バッチファイルのサイズが小さい事と、発行時にデータベースからデータを呼び出すのでデータベースの変更が反映できます。

チェックしない場合は、バッチデータがデータベースのデータと切り離されたので、バッチデータを変更してもデータベースのデータに影響しないというメリットがあります。ニーズに合わせて選択して下さい。

発行時表示状態の設定

発行画面でバッチ発行の画面にどのデータを表示するか、どの順番で表示するかを設定します。メニュー「(5) 設定」→「(E) 発行時表示状態の設定...」を選択します。右図のダイアログボックスが表示されます。バッチデータにある全てのデータ項目をどの形で表示するかを自由に設定できます。



第4部 バッチデータ管理／操作方法・その他設定

「既存データ項目」から表示させたいデータを選択し、「>>」ボタンをクリックして「発行時表示データ項目」の欄に追加します。追加する順番により、データの並び順も設定することができます。但し、設定した結果を「ラベル発行」のバッチ発行の画面でしか確認できません。

列順移動

外部からテキストデータを読み込む時、データの並び順がフォーマット作成時のデータの並び順と異なる場合は、データ項目列の並び順を入れ替えることができます。移動したい列のデータ項目名を選択し、メニューの「(2) 編集」→「(H) 列順序移動...」を選択します。

「移動先の指定」ダイアログが表示されるので、移動先を選択して、「移動」ボタンをクリックします。移動先に指定したデータ項目列の前に移動します。

※ 「列順移動」が出来るのはデータ（行）がない場合のみ行えます。

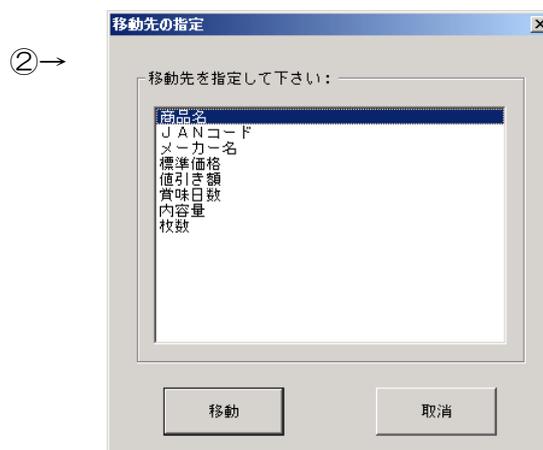
番号	商品名	JANコード	メーカー名	標準価格	値引き額	調整日数
行追加						

←①

① 最初に移動したい列のデータ項目名を選択します。

② 移動先のデータ項目名を選択します。

③ 選択したデータの前に列が移動されます。



番号	値引き額	商品名	JANコード	メーカー名	標準価格	調整日数
行追加						

←③

第 5 部

履歴データ管理

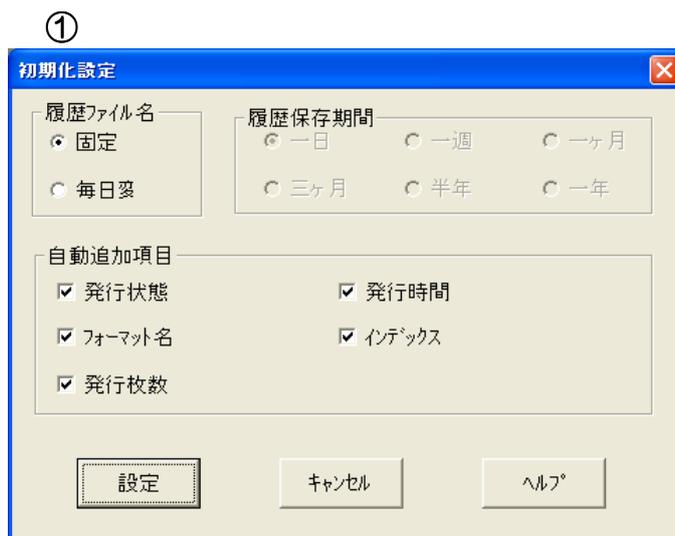
「AP-700 コンソールソフト」では、ラベルに印字した内容の履歴を自由に記録することができます。履歴データ管理とは、このように記録された、どの商品をいつ、何枚発行したかのような履歴データを照会したり、管理したり、集計したりするときに利用されるツールです。

履歴データ管理

「AP-700 コンソールソフト」では、履歴データを管理するには、まず履歴構造ファイル（拡張子:HST）を作成しなければなりません。履歴構造ファイルは履歴データファイルの名称の決め方、履歴の保存期間、デフォルトで記録するデータ項目などを設定します。実際の履歴データが履歴データファイル（拡張子:HDT）に記録されます。

履歴構造ファイルの作成

メニュー「(1) ファイル」から「(A) 新規作成」又は、ツールバーの「新規作成」を選択すると、図①の「初期設定」のウィンドウが出ます。まず、「履歴ファイル名」のタイプの選択をします。「固定」を選ぶと、全ての発行履歴が1つの履歴データファイルにより管理され、履歴データファイルの名称が、フォーマット優先発行モードでは履歴構造ファイルの名称と同じ、データベース優先発行モードではデータベースファイルの名称と同じです。「毎日変化」を選ぶと、履歴データファイルの名称が上記の固定名称+日付になるので、毎日新たな履歴データファイルが作成され履歴を管理します。その場合は「レコード保存期間」でデータファイルの保存期間を選択します。「自動追加項目」ではチェックをつけた項目が自動的に設定されます。「設定」をクリックすると、初期設定が完了します。



「自動追加項目」以外の項目は列追加ボタンを押して新たに設定します。列追加ボタンを押すとデータ項目の設定（図②）が表示されるので、履歴をとるデータに合わせて各項目を入力・選択し、設定します。データ属性では、「通常のデータ」以外は既に自動追加項目で選択されているものは選択できません。フォーマット作成の履歴データの設定では、データの名称を参照入力する際、ここで設定されたデータ名称が表示されます。

②

最後にメニューの (1) ファイルから (C) 上書き保存を選択するか、またはツールボタンの上書き保存をクリックし、ファイルに名前を付けて保存します。この履歴構造ファイルは管理メニューの「システム設定」(P12 参照) で履歴設定ファイルのパスと名称に設定します。



履歴データの照会

まず、履歴データを開くには、履歴構造ファイル（拡張子.HST）を最初に関き、その後、メニューの（1）ファイルから（D）履歴データを読み込むを選択するか、 ボタンを押すと右図のような「HDTファイルの選択」の画面が表示されます。右図③は初期設定のレコードファイルタイプが「毎日変化」を選択したものであるため、複数の履歴データファイルが表示されています。ファイルを選択し「開く」を押すと、履歴データファイルが開かれます。

③



履歴データファイルの操作は、列の移動・削除は行えませんが、その他の操作（データ修正、検索など）はデータベース管理と同様ですので、「第3部 データベース管理」を参照してください。

番号	商品	発行状態1	発行状態2	発行状態3	発行状態4	発行枚数	発行時間
00001	ずるめいか	発行済	発行済	未使用	未発行	100	27-08-2004 21:04:18
00002	ほしうめ	発行済	未使用	発行済	未発行	150	27-08-2004 21:04:19
00003	バナナチップ	発行済	未使用	未発行	未発行	300	27-08-2004 21:04:20
00004	レーズン	発行済	発行済	未発行	未発行	120	27-08-2004 21:06:35

データ集計画面と分析について

履歴データ集計の操作方法

開いた履歴データファイル（拡張子.HDT）の各データ項目をダブルクリックして「データ項目の設定」に入り、「データ集計分析対象の設定」を行います。

データ集計分析対象の設定

履歴データファイル内のデータ項目の設定では、「データ集計分析対象の設定」のみが行えます。「分析対象」とは分類別で集計するときの分類となるデータ項目のことです。分類対象が1から5までありますが、これらは集計の際の大分類、大中分類、中分類、中小分類、小分類とお考え下さい。例えば、月別・店舗別・商品別で売上を集計したい場合、月を分類対象1、店舗を分類対象2、商品を分類対象3と設定します。「集計対象」とは、内容が集計されるデータ項目のことです。先の例では、売上は集計対象になります。データの種類が英数字のもののみ「集計対象」に設定することができます。

④

集計範囲の設定

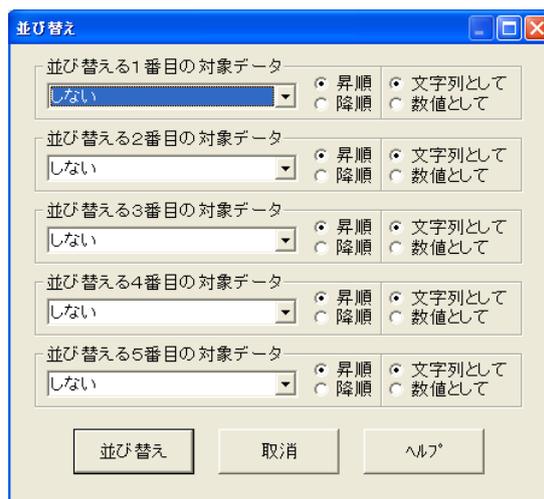
履歴データを集計するには先ず履歴データファイルを開き、メニューの(1)ファイルから(E)カレント履歴データを読み込むを選択するか、 ボタンを押します。履歴レコード一覧が表示され、「データ項目の設定」で設定した「分類対象」が、順番に表示されています。分類対象の名

称の左側にあるチェックボックスは、当該分類を集計するときに有効か無効かを設定するもので、チェックを入れると有効になり、画面左上にある **合計** ボタンをクリックすることにより、分類別の集計、例えば担当者別や店舗別、商品別での集計が可能となります。

さらにその下の二つのコンボボックスでは、各分類それぞれの表示や集計の範囲を決め、その範囲内においての合計や明細を表示させることも可能です。

並び替え

アイテムを並べ替えたい場合、まず並び替える対象になるデータ項目を指定するために、列セレクトバー/セレクト枠をそのデータ項目がある列へ持っていきます。次に、メニュー「検索」のサブメニュー「並び替え」を選択します。そうすると、設定ダイアログボックスが表示され、「並び替える対象のデータ」のところに指定したデータ項目の名称が表示されます。並び替える対象のデータは選択することが可能です。対象のデータは5項目まで選択することができます。データ項目が文字列の場合に「文字のコードに基づく」を選び、



データ項目が数字の場合に「数値の大きさに基づく」を選びます。どういう順番でアイテムを並び替えるかを設定することができます。小さい文字コード/数値が先、大きい文字コード/数値が後の場合、「小→大」を選び、逆の場合に「大→小」を選びます。このボタンを押すと並び替えが始まります。並び替えが終わったら、結果がリスト画面に表示されます。注意してほしいのは、一旦データベースを並び替えてしまうと、元の順番に戻ることができないことです。ただし、並び替えのメモリの中で行われるので、もう一度元のデータベースをファイルからメモリにロードすれば、元の順番に戻ることができます。

明細合計表示

合計5	kz12	AP-700P	120	331245	100	28-06-2004 17:27:29
合計4	kz12	AP-700P	120	331245	100	28-06-2004 17:27:29
合計3	kz12	AP-700P	120	331245	100	28-06-2004 17:27:29
合計2	kz12	AP-700P			295	
合計1	kz12	AP-700P			295	
総計					540	

合計は小合計と総計に分類することができます。小合計はデータ項目の設定で分類対象に指定されたアイテムを対象に合計*（*は分類対象の番号に対応）として計算されます。計算を行う対象は集計対象に設定されたアイテムになります。集計分類の優先順位は分類対象1、分類対象2、分類対象3、分類対象4、分類対象5の順になります。優先順位を持つとは最初に優先順位の高いアイテムを最初に分けた後に、次に優先順位の高いアイテムの分類を行うということです。

左の図では、合計1は2つあります。これは、(製品名称)が分類対象1で、AP-700CとAP-700Pを分けて計算しているからです。集計対象は(個数)で、赤字で表示されているのが合計です。その後に分類対象2の(ロット No.)で分けた集計対象(個数)の計算を合計2で表現します。総計はそれらの合計です

No.	製品名称	ロットNo.	個数
00001	AP-700C	695987456	50
00002	AP-700C	695987456	50
00003	AP-700C	695987456	100
合計2	AP-700C	695987456	200
00004	AP-700C	FJKLLM112	30
00005	AP-700C	FJKLLM112	20
合計2	AP-700C	FJKLLM112	50
合計1	AP-700C		250
00006	AP-700P	031015	15
00007	AP-700P	031015	15
00008	AP-700P	031015	5
合計2	AP-700P	031015	35
00009	AP-700P	GFBK-A152	30
00010	AP-700P	GFBK-A152	12
合計2	AP-700P	GFBK-A152	42
合計1	AP-700P		77
総計			327